

パソコンの各部は
こうなっている

基本的な機能を使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ

技術情報

索引

ハード編

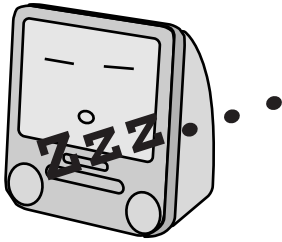
FMV-DESKPOWER Pliché

model 243



こんなことがやりたい！

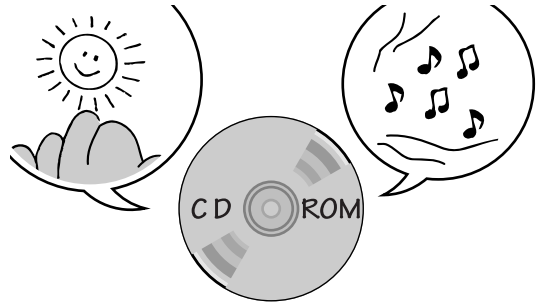
スタンバイ（省電力）機能で
節電したい！



ちょっと休憩...そんなときはスタンバイ
（省電力）機能で電力消費を抑えましょう。

☞ P.14

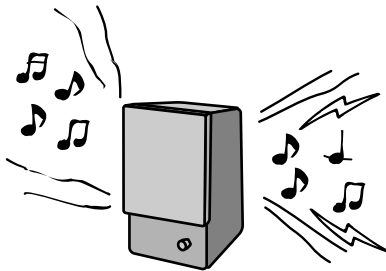
CD-ROM や音楽CD を使いたい！



パソコンでCD ROMの映像や音楽CDの
音声を楽しむことができます。

☞ P.19

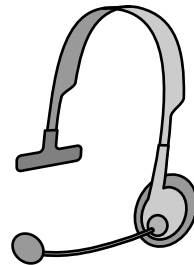
スピーカーで音を聞きたい！



音が大きすぎる、あるいは小さくて聞こえ
ない...そんなときはスピーカーの音量を調
節しましょう。

☞ P.22

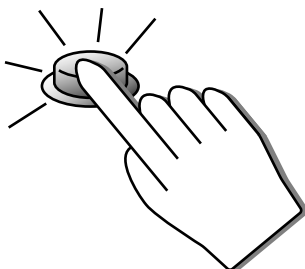
ヘッドセットを使いたい！



添付のヘッドセットを接続して、自分の声
で文章を入力したり、いろいろなアプリ
ケーションを使ってみましょう。

☞ P.23

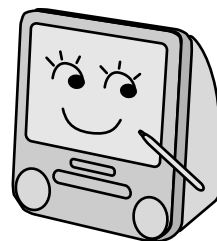
ワンタッチボタンでらくらく！



キーボードのワンタッチボタンを使うと、
簡単に音楽CDの操作や音量調節、メールソ
フトの起動が行えます。

☞ P.26

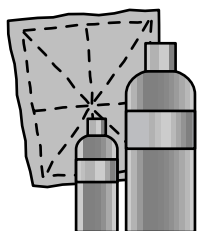
タッチパネルでらくらく！



ペンでタッチパネルに触れるだけ...簡単に
操作ができます。

☞ P.30

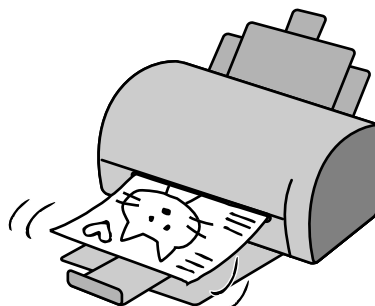
なんだか汚れてきちゃった... お手入れの方法が知りたい！



パソコンを毎日使っていると、だんだん汚れてしまいますよね...まめにお手入れをしましょう。

👉P.35

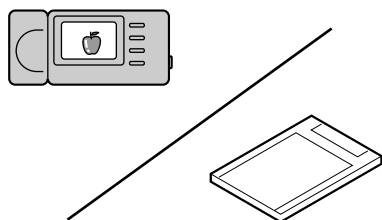
パソコンで作ったものを印刷したい！



年賀状、カード、企画書...作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

👉P.44

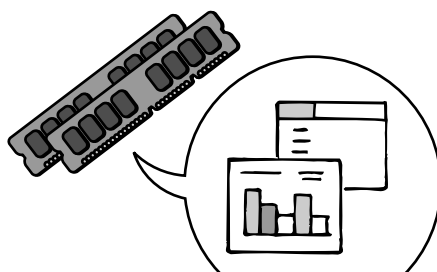
デジタルカメラを使いたい！



お気に入りの写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい...そんなときはデジタルカメラを接続します。

👉P.52

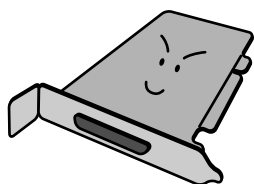
パソコンの処理をもっと快適にしたい！



たくさんのアプリケーションを同時に使いたい、「メモリ容量の不足」のメッセージがよく出る...そんなときはメモリを増設します。

👉P.60

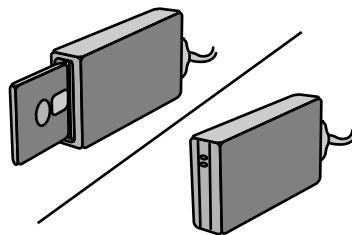
パソコンでもっと いろいろやってみたい！



ビデオの編集をしたり、ネットワークを組めるようにしたり...拡張カードを取り付けると、さまざまなことができるようになります。

👉P.67

もっとたくさんのデータを 保存したい！



あれもこれもとっておきたい...MOドライブやハードディスクを増設すると、大容量のデータを保存できます。



👉P.72, 👉P.77

本書の表記について




安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。


本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があります。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。


また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	Ⓞで示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また画面は一例です。お使いの状況によって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上にアミ  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

`dir c:`

この場合は、「dir」と入力したあと、（空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。










- 特に指示がない場合、クリック、ダブルクリックの操作は、マウス、ペンのどちらで操作しても構いません。

イラストについて

- 本来接続されているケーブルなどを省略している場合があります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 アドバイス	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROMを表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
 用語	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98
Microsoft® Internet Explorer 5.00.2614.3500	Internet Explorer
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
FMV-DESKPOWER Pliché model 243	本パソコン, model 243

こんなことがやりたい！
本書の表記について

第 1 章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き	2
パソコン本体前面	2
パソコン本体側面	4
キーボード	6
ワンタッチボタン	8
マウス	9

第 2 章 基本的な機能を使おう

1. 電源を入れる / 電源を切る	12
電源を入れてパソコンを使おう	12
今日はおしまい。電源を切るには？	13
2. スタンバイ（省電力）機能を使う	14
スタンバイ（省電力）機能とは？	14
電源の管理	15
3. フロッピーディスクを使う	16
気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき	16
使えるフロッピーディスクは？	17
フロッピーディスクをセットする / 取り出す	17
フロッピーディスクのデータを守るには	18
4. CD-ROM を使う	19
気をつけてください～CD を使うとき	19
使えるCD は？	19
CD をセットする / 取り出す	20
5. スピーカー / ヘッドセットを使う	22
音量を調節する	22
ヘッドセットを使う	23
ヘッドホンを使う	25
6. ワンタッチボタンを使う	26
アプリケーションの割り当てを変更する	26
7. スクロールボタンを使う	28
スクロールさせる～スライドして使う	28
スクロールさせる～押して使う	29
8. タッチパネルを使う	30
タッチパネルの使いかた	30
タッチパネルの補正	31
9. 画面の解像度や発色数を変える	32
表示できる解像度と発色数	32
解像度や発色数を変更する	33

10. お手入れのしかた	35
パソコン本体 / ACアダプタ / タッチパネル / キーボードのお手入れ	35
マウスのお手入れ	35
フロッピーディスクドライブのお手入れ	37

第3章 オプション機器を活用しよう！

1. オプション機器を取り付ける前に	40
取り付けられるオプション機器	40
オプション機器の接続にあたって	42
2. つないで活用！！	44
文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～	44
便利なカード！～PCカードをセットする～	48
コラム 本パソコンでお使いになれるPCカードの種類	49
お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！ ～デジタルカメラ / スキャナを使う～	52
ISDN回線に接続したい！～ターミナルアダプタを接続する～	54
つないでらくらく！～USB機器を接続する～	55
オリジナルMDをつくりたい！～MDレコーダーを接続する～	56
3. パワーアップするために～本体カバーを取り外す～	58
本体カバーを取り外す	58
本体カバーを取り付ける	59
4. メモリを増やす	60
メモリを増やすとは？	60
取り付けられるメモリ	61
メモリを取り付ける	62
5. 拡張カードを増設する	67
拡張カードとは？	67
お使いになれる拡張カード	68
拡張カードを取り付ける	69
6. MOドライブを増設する	72
MOとは？	72
お使いになれるMOドライブ	72
コラム 終端抵抗（ターミネータ）とは	74
外付けMOドライブを取り付ける	74
7. ハードディスクを増設する	77
ハードディスクを取り付けるには	77
外付けハードディスクを取り付ける	77

第 4 章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	86
2. BIOS セットアップの操作のしかた	87
BIOS セットアップを起動する	87
設定を変更する	88
変更内容を取り消す	89
BIOS セットアップを終了する	90
3. ご購入時の設定に戻す	92
4. BIOS が表示するメッセージ一覧	96
メッセージが表示されたときは	96
メッセージ一覧	96

第 5 章 技術情報

1. 仕様一覧	100
パソコン本体	100
液晶ディスプレイ	101
タッチパネル	101
サウンド機能	101
スピーカー	101
FAX / ボイスモデムカード	102
IRQ (割り込み要求) 一覧	103
コラム IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request) とは	103
コネクタのピン配列と信号名	105
本体のコネクタ / ジャックで利用できるケーブル	106
2. ドライバのインストール	107
インストールのときに気をつけること	107
ディスプレイドライバをインストールする	108
サウンドドライバをインストールする	111
タッチパネルドライバをインストールする	115
3. その他の注意事項	117
液晶ディスプレイの特性	117
液晶ディスプレイの廃棄	117
モデムについて	117
かんたんメールボタンについて	119
スタンバイ時の注意	119
画面表示について	119
電源の切断について	119
APM について	120

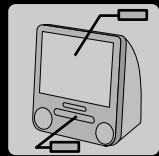
索引	125
----------	-----

第 1 章

パソコンの各部はこうなっている

パソコン本体やキーボードなどの各部の名称について説明しています。

1. 各部の名称と働き	2
-------------------	---



1

各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、側面、キーボード、マウスの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面

EJECTボタン
CD-ROMドライブに、CD-ROMや音楽CDをセットする、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

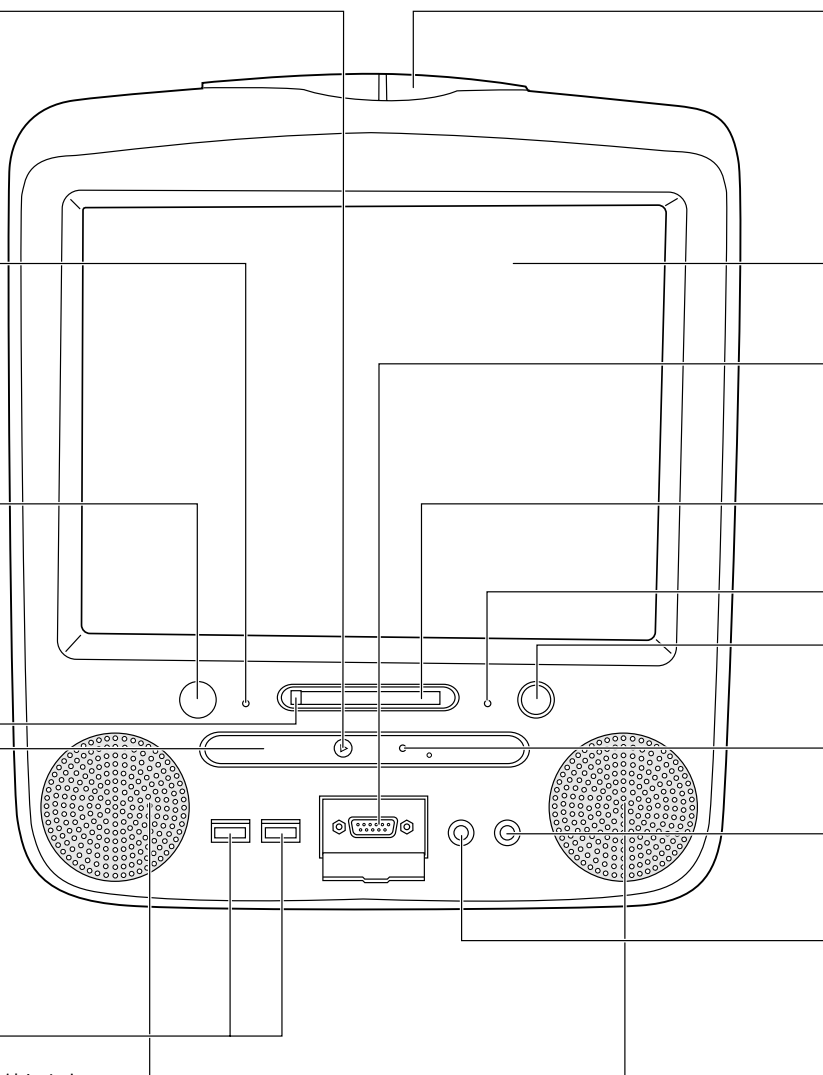
ハードディスクアクセス表示ランプ
ハードディスクのデータを読み書きしているときに点灯します。

かんたんメールボタン
(☛P.27)
メールソフトを起動するときに押します。FM便利ツールと連携してEメールを受信したときに点滅します。

PCカード取り出しボタン
PCカードを取り出すときに押します。

CD-ROMドライブ
(☛P.19)
CD-ROMのデータやプログラムを読み出したたり、音楽CDを再生したりします。

USBポート 1 (左側)
USBポート 2 (右側)
USB機器 (☛P.55) を接続します。お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。



用語

USB(ユーエスビー)

Universal Serial Bus という規格の略称です。USB規格に対応している機器には、次のようなものがあります。

- ・マウス
- ・キーボード
- ・プリンタ
- ・ターミナルアダプタ
- ・スピーカー
- ・デジタルカメラ
- ・スキャナ
- ・CCDカメラ

ペン (P.30)

画面に文字や絵を書くときやタッチ操作をするときに使います。マウスに代わって、クリック、ダブルクリックができます。右クリック、ドラッグ、ポイントなどの操作はマウスをお使いください。

タッチパネル (P.30)

パソコンの画面を表示する液晶ディスプレイです。タッチ操作するときに使います。

シリアルコネクタ (COM1)

デジタルカメラ (P.52) などのRS-232C規格に対応した機器のケーブル (D-SUB9ピン) を接続します。シリアルポートともいいます。お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。

PCカードスロット (P.48)

PCカードをセットするためのスロットです。

電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

電源スイッチ (P.12)

パソコン本体の電源を入れるとき、電源を切るときに押します。

BUSYランプ

CD-ROMからデータを読み込んでいるときや、音楽CDを再生しているときに点灯します。

ヘッドホン端子 / 光デジタルオーディオ出力端子

添付のヘッドセット (P.23) のヘッドホンプラグまたは市販のヘッドホン (P.25)、市販の光デジタルオーディオケーブル (P.56) を接続します。

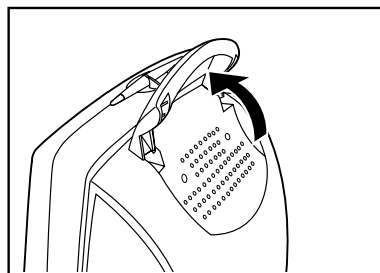
マイク端子

添付のヘッドセット (P.23) のマイクプラグを接続します。

スピーカー (P.22)

本パソコンの音声を出力します。

パソコン本体側面



取っ手
持ち運ぶときに、引き上げて使えます。

ブライトネスボリューム
液晶ディスプレイのバックライトの明るさを調節します。上にスライドさせると明るくなり、下にスライドさせると暗くなります。

フロッピーディスクドライブ
(P.16)
フロッピーディスクをセットし、データを読み書きします。

通風孔
パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。
ふさがないでください。



けが パソコン本体を持ち運ぶときは、必ず取っ手を持つようにしてください。取っ手以外の部分を持つと、落下してけがの原因となることがあります。また、故障の原因となることがあります。

クリアパネル
フロッピーディスクドライブを使うときなどに開きます。

フロッピーディスク取り出しボタン
フロッピーディスクを取り出すときに押します。

PHONE端子
電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

拡張スロット
拡張カード (☞P.67) を取り付けると、コネクタがここに見えます。

LINE端子
電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

フロッピーディスクアクセス表示ランプ
フロッピーディスクを読み書きしているときに点灯します。

LINE IN端子
オーディオ機器などの音声出力端子を接続します。

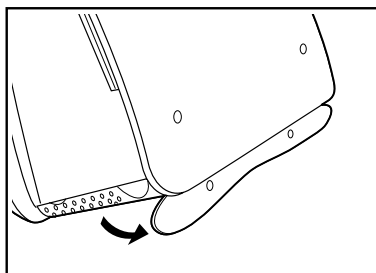
LINE OUT端子
オーディオ機器などの音声入力端子を接続します。

DC-INコネクタ
ACアダプタを接続します (☞ 『取扱説明書』)。

USBポート4
プリンタ (☞P.44) を接続します。

USBポート3
添付のキーボード (☞P.6) を接続します (☞ 『取扱説明書』)。

本体チルトフット
底面にある本体チルトフットを
起こすと、パソコン本体の角度
が調節できます。

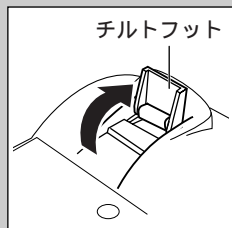


キーボード

アドバイス

キーボードに角度をつけて置くには

キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。使いやすさのほうをお選びください。



他社製のUSBハブではお使いになれません

添付のキーボードは、パソコン本体側面のUSBポート3(☞P.5)に接続してお使いください。

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。

本パソコンでは、パソコン本体側面のUSBポート3(☞P.5)に接続します(☞☞『取扱説明書』)。

使用するアプリケーションによって動作が異なることがあります。ここでは、各キーを押したときの一般的な動作を説明しています。

マウスポート(裏面)

添付のマウスを接続します(☞☞『取扱説明書』)。

添付のマウス以外は接続しないでください。

ワンタッチボタン(☞P.8)

音楽CDの操作や音量調節、メールソフトの起動を直接行えるボタンです。

F(ファンクション)キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc(エスケープ)キー

作業を取り消すときに使います。

Caps Lock(キャプスロック)

英数キー

アルファベットを入力するときに、(Shift)を押しながらこのキーを押すと、大文字/小文字入力が切り替わります。

Shift(シフト)キー

他のキーと組み合わせて使います。このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

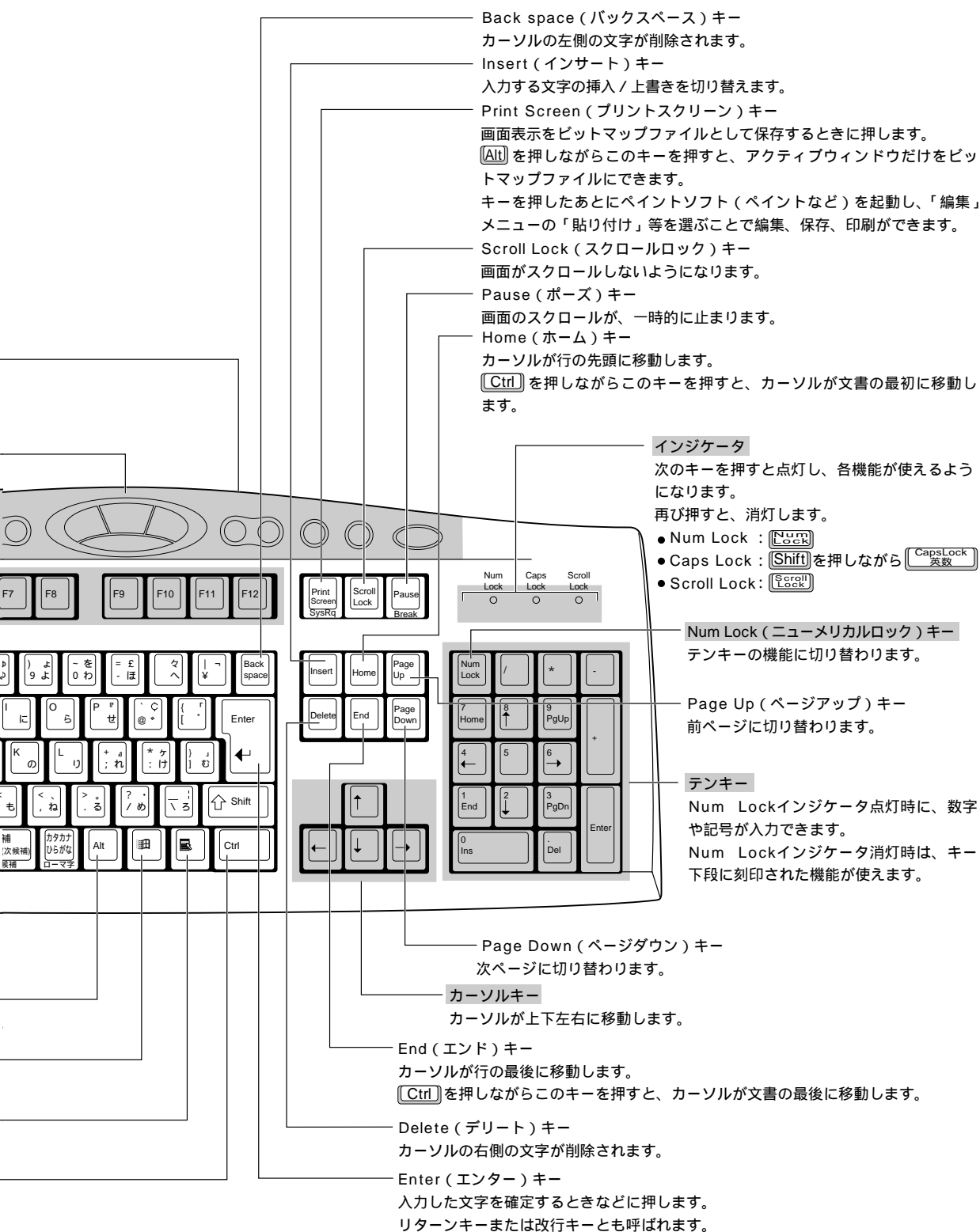
空白(スペース)キー
空白が入力されます。

Alt(オルト)キー
他のキーと組み合わせて使います。

Windows(ウィンドウズ)キー
「スタート」メニューが表示されます。

Application(アプリケーション)キー
右クリックと同じ役割をします。

Ctrl(コントロール)キー
他のキーと組み合わせて使います。

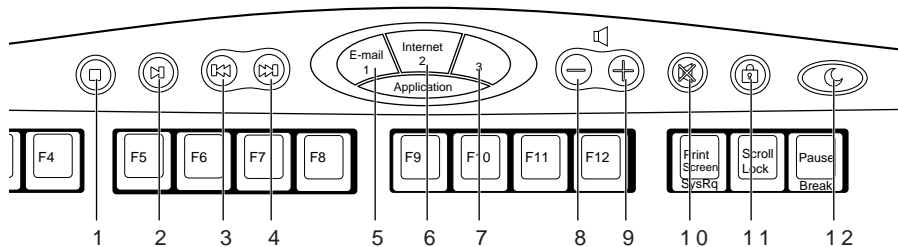


ワンタッチボタン

アドバイス

ワンタッチボタンをお使いになるときの注意

1～7, 11のボタンは、FM便利ツールが起動しているときのみお使いになれません。



重要

CD操作ボタンは、音楽CD以外では使わないでください

パソコンの動作が不安定になる場合があります。特に「停止/取り出しボタン」を押すとEJECT機能が働いてしまい、エラー画面が表示される場合があります。

詳しくは、『トラブル解決Q&A』の「CD-ROMを取り出したら青い画面になった」をご覧ください。

1～4 CD操作ボタン

- | | |
|--------------|--|
| 1 停止/取り出しボタン | : 音楽CDの再生を停止します。
停止しているときに押すと、トレーが少し飛び出します。 |
| 2 再生/一時停止ボタン | : 音楽CDの再生をはじめます。
再生しているときは、一時停止します。 |
| 3 巻き戻しボタン | : 音楽CDの再生する曲順をひとつ前にします。 |
| 4 早送りボタン | : 音楽CDの再生する曲順をひとつ次にします。 |

5～7 Application (アプリケーション) ボタン

FM便利ツールで設定されているアプリケーションは変更できます。詳しくは、「ワンタッチボタンを使う」(P.26)をご覧ください。ご購入時は、次のように設定されています。

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 5 Applicationボタン1 / E-mailボタン | : らくらくメールBOXが起動します。 |
| 6 Applicationボタン2 / Internetボタン | : Internet Explorerが起動します。 |
| 7 Applicationボタン3 | : インターネット無料体験が起動します。 |

8～10 音量調節ボタン

スピーカーの音量を調節します。詳しくは「音量を調節する」(P.22)をご覧ください。

- | | |
|------------------|--|
| 8 ボリュームボタン (-) | : 音量が小さくなります。 |
| 9 ボリュームボタン (+) | : 音量が大きくなります。 |
| 10 Mute (消音) ボタン | : 音が消えます。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。 |
| 11 スクリーンセーバーボタン | : スクリーンセーバーが起動します。 |
| 12 スタンバイボタン | : 本パソコンがスタンバイ状態 (P.14) になります。
もう一度押すと元の状態に戻ります。 |

アドバイス

CD操作ボタンをお使いになるときの注意

「Jet-Audio Player」などのアプリケーションで音楽CDを再生するときは、CD操作ボタンは使えません。

アドバイス


「Application」と書かれている部分は

ボタンではないので押せません。

マウス

アドバイス

マウスの設定を変えるには


「コントロールパネル」ウィンドウの  (マウス) で変更できます。

マウスポインタの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。


詳しくは、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q & A」をご覧ください。


マウスのすべりが悪くなったら

マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールはクリーニングできます。

詳しくは、「マウスのお手入れ」( P.35)をご覧ください。

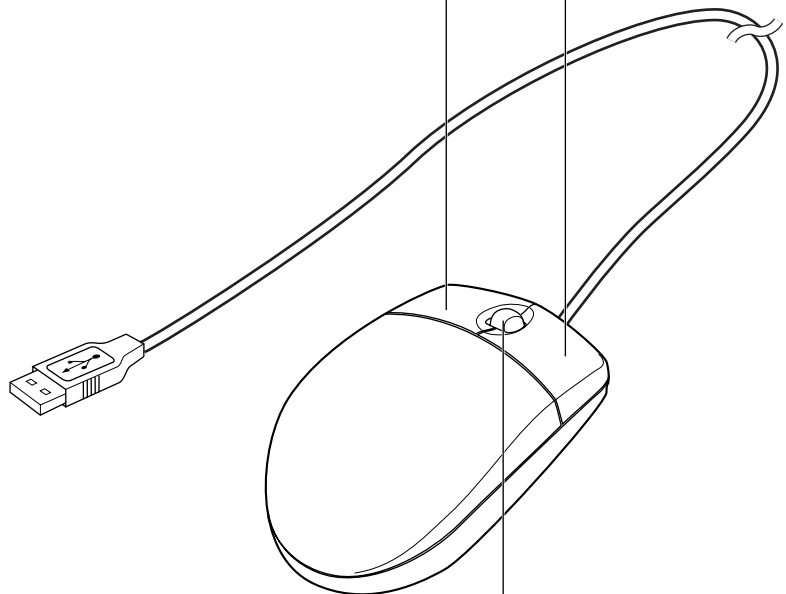
マウスは、画面の中の絵や文字を指して、パソコンに情報を伝えるための道具です。本パソコンのマウスは「USB スクロールマウス」というタイプのマウスです。


キーボードのマウスポート ( P.6) に接続します。

また、スクロールボタンについて詳しくは、「スクロールボタンを使う」( P.28) をご覧ください。

右ボタン
右クリックするとき押します。

左ボタン
クリックするとき押します。



スクロールボタン ( P.28)
画面をスクロールしたいときに、押したりスライドさせたりします。

第 2 章

基本的な機能を使おう

本パソコンの基本的な取り扱い方法や、お手入れのしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る	12
2. スタンバイ (省電力) 機能を使う	14
3. フロッピーディスクを使う	16
4. CD-ROM を使う	19
5. スピーカー / ヘッドセットを使う	22
6. ワンタッチボタンを使う	26
7. スクロールボタンを使う	28
8. タッチパネルを使う	30
9. 画面の解像度や発色数を変える	32
10. お手入れのしかた	35

電源を入れる / 電源を切る

ここでは、電源の入れかたと切りかたについて説明します。



- けが
- ・フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
 - ・CD-ROMなどをセットまたは取り出すときは、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

電源を入れてパソコンを使う



電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10秒ほどお待ちください

アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器を、Windows98が正常に認識できないことがあります。Windows98が完全に起動するのを待ち、次の手順に従って操作してください。

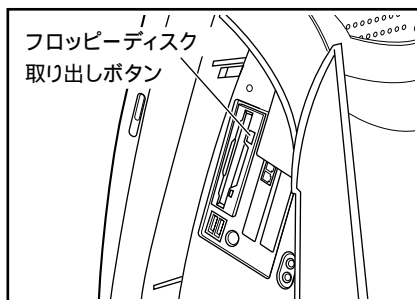
- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。

セットされているときは、フロッピーディスクを取り出してください。

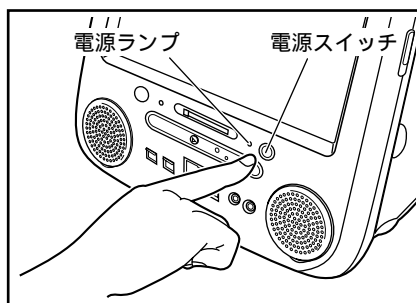
☛「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.17)



3 パソコン本体の電源スイッチを押します。

電源ランプが点灯します。

しばらくすると、Windows98の画面が表示されます。



電源スイッチを押してもWindows98が起動しないときは

Windows98が起動せず、メッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(☛P.96)をご覧ください。

今日はおしまい。電源を切るには？

アドバイス

その他の電源の切りかた

次の方法でも電源を切ることができます。

- 1 右記の「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順2までの操作を行います。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。
しばらくするとWindows 98が終了し、電源ランプが消えます。
- 4 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

アドバイス

「フロッピーディスクが入っています。Windowsの終了を中止します。」というメッセージが表示されたら

「閉じる」をクリックし、手順2から操作し直してください。

アドバイス

強制終了について

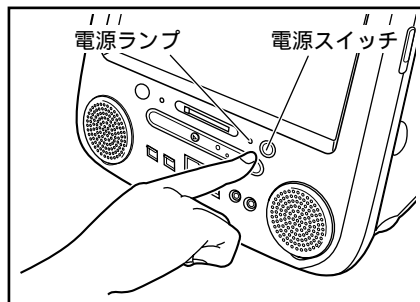
『トラブル解決Q&A』の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。

重要

必ずアプリケーションを終了してください

本パソコンが正常に終了できなかつたり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

- 1 **本パソコンで行っていた作業を終了します。**
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 **フロッピーディスクやCD-ROMがセットされていないことを確認します。**
セットされているときは、取り出してください。
☛ 「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.17)
☛ 「CDをセットする / 取り出す」(P.20)
- 3 **パソコン本体の電源スイッチを押します。**
しばらくするとWindows 98が終了し、電源ランプが消えます。



重要

電源スイッチは押し続けしないでください

電源スイッチを押し続けると、強制的に電源が切れ、故障などの原因になります。

- 4 **本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。**

電源が切れないときは

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときは、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。このあと、パソコン本体の電源ランプが消えている(電源が切れている)ことを確認してください。

オレンジ色に点灯しているときはスタンバイ状態になっていて、電源が切れていません。もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

通常は前記の「今日はおしまい。電源を切るには？」の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。

2

基本的な機能を使う(電源を入れる/電源を切る)



2

スタンバイ（省電力）機能を使う

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明します。

スタンバイ（省電力）機能とは？

本パソコンの電力消費を抑えるための機能です。この機能が働くと、パソコン本体が省電力の状態になり、画面の表示が消えて真っ暗になります。

長時間作業をしないときなどは、この機能を使って節電を心がけましょう。

スタンバイ状態になると、パソコン本体の電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります。

スタンバイ（省電力）機能を働かせるには

本パソコンをスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

- ・ キーボードのスタンバイボタン（☛P.8）を押す
- ・ 一定時間操作しなかったときに、自動的にスタンバイ機能が働くように設定する
☛「電源の管理」（P.15）
- ・ 「Windowsの終了」ウィンドウで、「スタンバイ」に設定する
☛ アドバイス「その他の電源の切りかた」（P.13）の手順3で「スタンバイ」をクリックします。

重要

次のときは、スタンバイ状態にしないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。


- ・ Windows98の起動中
（パソコン本体の電源を入れてから画面が完全に表示されるまで）
- ・ ハードディスクアクセス表示ランプやBUSYランプの点灯中
- ・ 動画の再生中、音楽の録音や再生中
- ・ ゲームや音声認識ソフトの使用
- ・ 通信中
- ・ ネットワーク接続中（LANカード増設時）
- ・ ACPIに対応していないオプション機器を増設した場合

連続してスタンバイボタンを押さないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

スタンバイ状態から元の状態に戻すには

本パソコンをスタンバイ状態から元の状態に戻すには、次の方法があります。

- ・ もう一度キーボードのスタンバイボタンを押す
- ・ キーボードの  や **[Shift]** を押す
- ・ マウスを動かす

しばらく（5～10秒）すると、パソコン本体の電源ランプが緑色に点灯し、再び画面が表示されます。

アドバイス


元の状態に戻したときは

画面が表示されてもハードディスクアクセス表示ランプ（☛P.2）が完全に消えるまでは操作を行わないでください。

電源の管理

Windows98では、一定時間操作しなかったときにスタンバイ機能が働くように設定したり、その他の簡単な省電力機能が設定できます。

変更は次の手順で行います。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 設定を変更します。

本パソコンのご購入時には、次のように設定されています。

<電源設定タブ>

自動的にスタンバイ機能が働くまでの時間を設定します。



<詳細タブ>

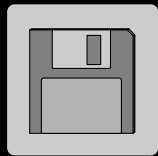
パソコン本体の電源スイッチを押すと、電源が切れます。

キーボードのスタンバイボタンを押すと、スタンバイ状態になります。



2

基本的な機能を使おう (スタンバイ (省電力) 機能を使う)



3

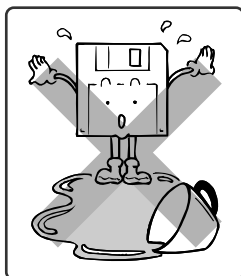
フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。

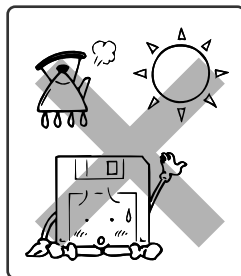
ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出しかたなどについて説明します。

気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき

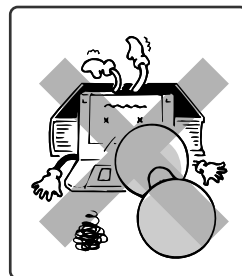
フロッピーディスクをお使いの場合に誤った使い方をすると、データの読み書きができなくなることがあります。フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。



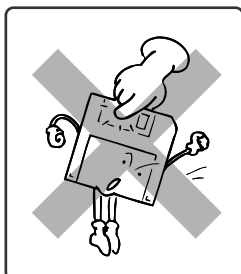
コーヒーなどの液体をかけないでください。



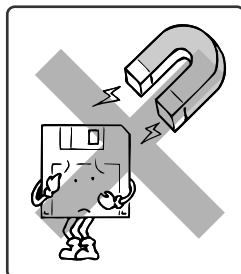
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



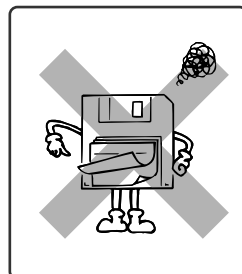
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。
ドライブから取り出せなくなる原因となります。

使えるフロッピーディスクは？

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、3モードドライブです。次のような種類、記憶容量のフロッピーディスクがお使いになれます。

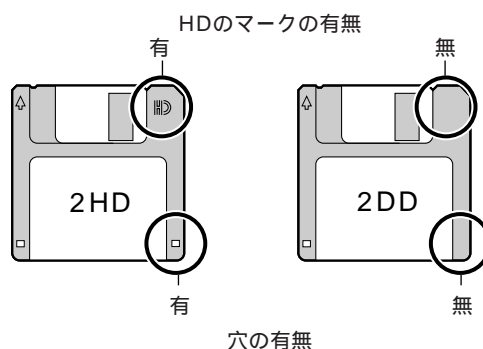
2HD

1.44MB、1.2MBの記憶容量のものです。

2DD

2HD(1.44MB)の半分の、720KBの記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下図のような違いがあります。



なお、本パソコンでは1.2MBにフォーマットすることはできません。フロッピーディスクのフォーマット方法については、画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決！Q&A」をご覧ください。

用語

MB(メガバイト)

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス

データを読み出せないこともあります

フロッピーディスクをフォーマットした環境(メーカー、機種、ソフトウェア)が違えば、データを読み出せないなど、正しくお使いにならないことがあります。

フロッピーディスクをご購入のときは

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをご購入ください。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す



注意



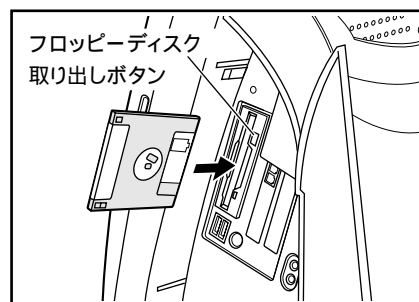
けが フロッピーディスクをセットまたは取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れしないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

1 パソコン本体右側のクリアパネルを開きます。

2 ラベル面をパソコン本体前面側にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込んでください。



取り出す

重要

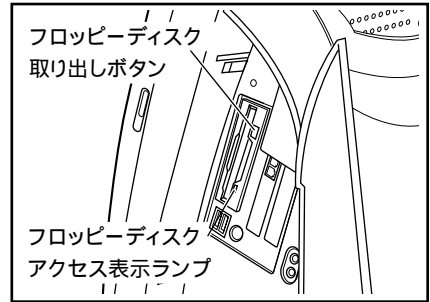
データが壊れるおそれがあります

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。

1 パソコン本体右側のクリアパネルを開きます。

2 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。

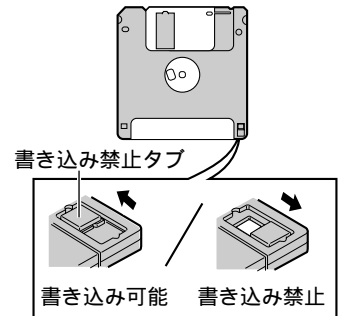


フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態(書き込み禁止の状態)にします。

再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、「気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき」(P.16)の注意事項を守ってお使いください。



アドバイス

取り出すときの注意

お使いのフロッピーディスクの種類によっては、勢いよく飛び出してくるものもありますので、ご注意ください。



4

CD-ROM を使う

CD-ROMドライブでは、CD-ROMの映像や音声、音楽CDなどを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。

ここでは、CD-ROMドライブでお使いになれるディスクや、CD-ROMドライブの使いかたを説明します。

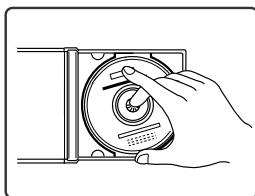
気をつけてください~ CD を使うとき

アドバイス

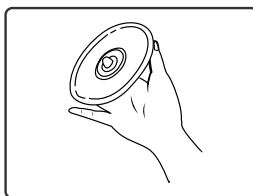
CD-ROM クリーニングディスクは使わないでください

CD-ROM クリーニングディスクをお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、CD-ROMドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。

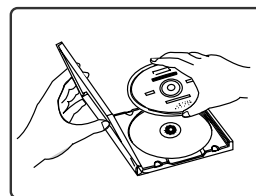
CD-ROM や音楽CD (以下、まとめてCD と呼びます) をお使いになるときは、次の点にご注意ください。



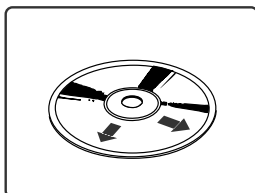
ケースからCDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



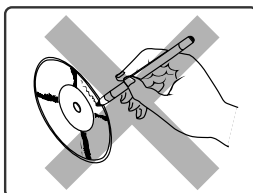
データ面(裏面)に触れないように、CDのふちを持つようにしてください。



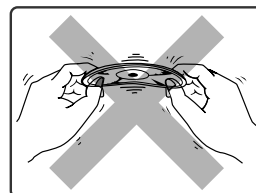
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



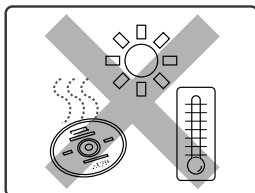
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで無理に乾燥させないでください。



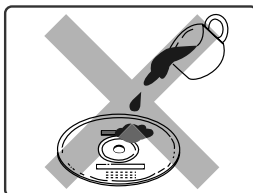
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



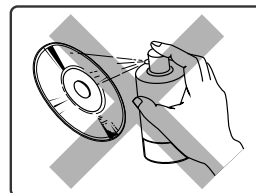
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

使えるCDは?

本パソコンでは、次のマークがついたCDがお使いになれます。



CD をセットする / 取り出す

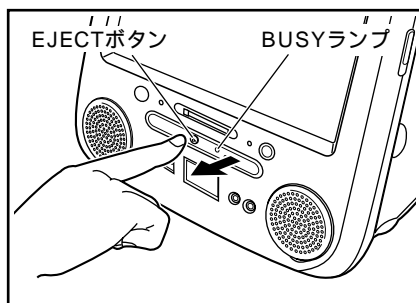
CD は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。



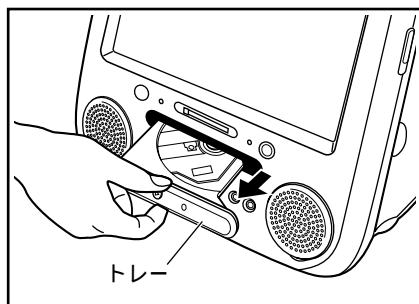
け が CD をセットまたは取り出すときは、CD-ROMドライブのトレーに指などを
入れないでください。
け がの原因となることがあります。

セットする

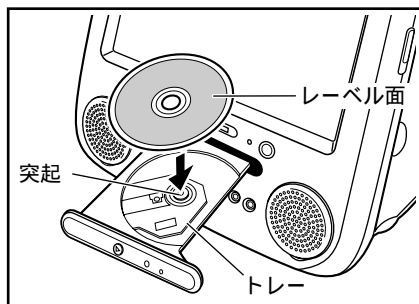
- 1** EJECT ボタンを押します。
CD をセットするトレーが少し出てき
ます。



- 2** 出てきたトレーの中央を持って、
手で引き出します。



- 3** CD のレーベル面(印刷面)を上
にして、トレーの中央に「カチッ」
という音がするまではめ込みます。



- 4** トレーの中央部を押して、トレー
を戻します。

トレーを「カチッ」という音がするま
で手で静かに押し込んでください。
CD がセットされ、BUSY ランプが点
灯します。BUSY ランプが消えたこと
を確認してから、次の操作に進んでく
ださい。



アドバイス

自動で起動するデ
ィスクもあります

CD-ROMによっては、セッ
トすると自動的に起動する
ものもあります。

また、音楽CDは、セッ
トすると自動的に再生が始
まります。

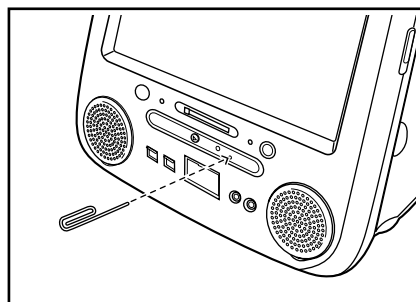
取り出す

- 1** CD を使っているアプリケーションがあれば、終了します。
- 2** BUSY ランプが消えていることを確認し、EJECT ボタンを押します。
CD がセットされたトレイが少し出てきます。
- 3** 出てきたトレイを手で引き出し、CD を取り出します。
- 4** トレーを戻します。
トレイを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。

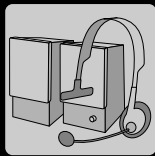
CD が取り出せないときは

曲がりにくい針金(大きなクリップをのばしたものなど)をご用意のうえ、次の手順で CD を取り出してください。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。
- 2** 用意した針金を、CD-ROM ドライブの穴に差し込みます。
まっすぐに、少し力をこめて差し込んでください。トレイが少し飛び出します。



- 3** トレーを手前に引き出して、CD を取り出します。
- 4** トレーを戻します。
トレイを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。



5

スピーカー / ヘッドセットを使う

ここでは、スピーカーの取り扱いの注意や、音量を調節する方法、ヘッドセットやヘッドホンを使う方法について説明します。

音量を調節する

音量は、次の方法で調節できます。

- ・ キーボードの音量調節ボタンを使う
- ・ 画面の音量つまみを使う



キーボードの音量調節ボタンは、画面の音量つまみと連動しています。

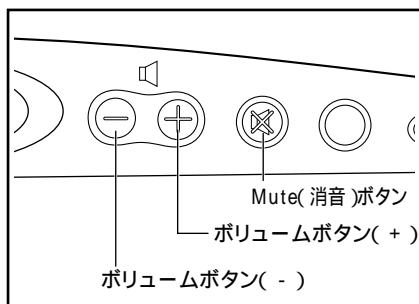
ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

キーボードの音量調節ボタンを使う

- 1 キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。


ボリュームボタン(-)を押すと小さく、ボリュームボタン(+)を押すと大きくなります。

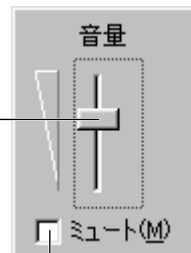
Mute(消音)ボタンを押すと音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう一度押すと元の音量に戻り、タスクバーの表示もに戻ります。





画面の音量つまみを使う

キーボードの音量調節ボタンの操作と同じことが、次の手順で行えます。


- 1 タスクバーの (音量) をクリックします。
音量つまみが表示されます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート
ここをクリックしてにすると音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう一度クリックしてにすると元の音量に戻り、タスクバーの表示もに戻ります。

アドバイス


タスクバーに (音量) が表示されていないときは

画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「解決! Q&A」をご覧ください。

その他の音量調節のしかた

「マスタ音量」ウィンドウのマスタ音量のつまみを上下にドラッグしても、音量を調節できます。

「マスタ音量」ウィンドウの表示方法は次のとおりです。

- 1 タスクバーの (音量) を右クリックします。
- 2 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。

「マスタ音量」ウィンドウでは、次の音量調節ができます。

- ・ マスタ音量
: パソコン全体の音量
- ・ Wave
: Wave ファイルの音量
- ・ SW Synth
: MIDI の音量
- ・ CD プレーヤー
: 音楽CDの音量
- ・ PC スピーカー
: PCスピーカーの音量

なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切ると、ご購入時の状態に戻ることがあります。

3 デスクトップの何も無いところをクリックします。

音量つまみが閉じます。


閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何も無いところをクリックしてください。

スピーカーから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

- ・適切な音量になっているか

音量が最小になっていると、スピーカーからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。

また、画面の音量つまみのミュートがになっている（タスクバーにと表示されている）と音は聞こえません。キーボードの Mute（消音）ボタンを押すか、をクリックしてにしてください。


- ・ヘッドセットやヘッドホンが接続されていないか

ヘッドセットやヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドセットやヘッドホンを取り外してください。

ヘッドセットを使う

本パソコンでは、ヘッドセットを使って音声入力や録音、また音楽を楽しむことができます。

ヘッドセットの接続について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

ヘッドセットを使って音声入力や録音をするには、音声認識ソフト「DragonSpeechPartner」を使います。「DragonSpeechPartner」や音声入力のしかたについて詳しくは、『DragonSpeech™ Partner3.6 クイックスタート』をご覧ください。

ここでは、ヘッドセットの取り扱いの注意について説明します。



気をつけてください~ヘッドセットを使うとき

ヘッドセットをお使いになるときは、次の点にご注意ください。




アドバイス


市販のマイクはお使いになれません

必ず添付のヘッドセットのマイクをお使いください。ヘッドセットのマイク端子だけを接続して、マイクとしてお使いになることもできません。



注意

聴力障害  ヘッドセットをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



聴力障害  ヘッドセットをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

- ・スピーカーから離してお使いください。ハウリング(キーンと音がすること)を起こす場合があります。
- ・マイクが頬などに当たると雑音が入る場合があります。
また、マイクの先端が口元と違う方向を向いていると音声が入力されにくくなります。ヘッドセットを付けた後に、マイクの向きを調整してください。
- ・マイクに向かって話すときは、呼吸音が入るのを防ぐため、マイクの先を唇の端に寄せてください。
- ・ヘッドセットで聞くことができる音声は、左右の音を合成したモノラル音声です。音楽CDなどのステレオ音声を聞く場合は、市販のヘッドホンをお使いください。

何らかの理由でヘッドセットが破損した場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

ヘッドセットから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

- ・ヘッドセットが正しく接続されているか
 『取扱説明書』をご覧になり、正しく接続されているか確認してください。
- ・適切な音量になっているか
音量が最小になっていると、ヘッドセットからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。
また、画面の音量つまみのミュートが になっている(タスクバーに  と表示されている)と音は聞こえません。キーボードの Mute (消音) ボタンを押すか、 をクリックして にしてください。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子に接続します。

アドバイス

ヘッドホンのみお使いになれます

ヘッドホン端子と光デジタルオーディオ出力端子は共用です。そのためヘッドホンをお使いのときは、MDレコーダーがお使いになれません。



聴力障害



ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害



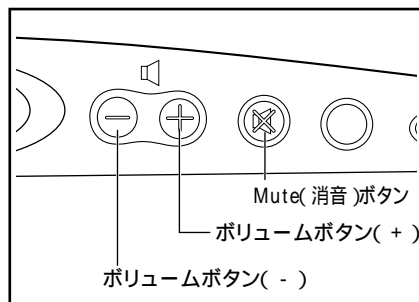
ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。

刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

2

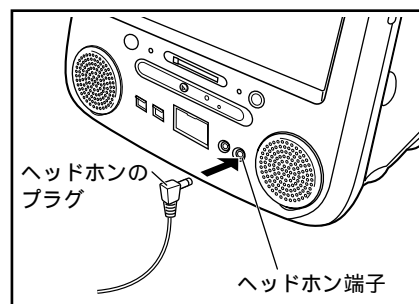
基本的な機能を使う(スピーカー/ヘッドセットを使う)

- 1 キーボード上部にあるボリュームボタン(-)を押し続けて、音量を最小にします。



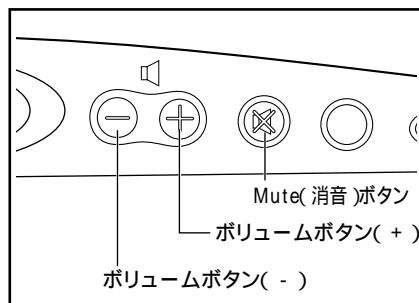
- 2 ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に差し込みます。

2つ並んでいる差し込み口の右側です。



- 3 キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

ボリュームボタン(-)を押すと小さく、ボリュームボタン(+)を押すと大きくなります。



アドバイス

ヘッドホンを接続したときは

スピーカーからは音が聞こえなくなります。

アドバイス

ヘッドホンから音が聞こえないときは

「ヘッドセットから音が聞こえないときは」(P.24)をご覧ください。



6

ワンタッチボタンを使う

ワンタッチボタンの Application (アプリケーション) ボタン (P.8) を使うと、設定したアプリケーションを簡単に起動することができます。

ここでは、各 Application ボタンに割り当てられているアプリケーションの変更のしかたについて説明します。

アプリケーションの割り当てを変更する

ここでは、Application ボタン 1/E-mail ボタンを E-mail ボタン、Application ボタン 2/Internet ボタンを Internet ボタンと呼びます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FM 便利ツール」、「1. 便利ツール」の順にマウスポインタを合わせ、「2. かんたんボタン」をクリックします。

「かんたんボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

- 2 設定を変更したいボタンのタブをクリックします。

- ・「E-mail」タブ
E-mail ボタン
- ・「Internet」タブ
Internet ボタン
- ・「Application A」タブ
Application ボタン 3





アドバイス ご購入時の設定

- E-mail ボタン
: らくらくメールBOX
- Internet ボタン
: Internet Explorer
- Application ボタン 3
: インターネット無料体験

アドバイス

E-mail ボタンを変更するとき


設定したいメールソフトが「メールソフト」欄にないときは、「その他」の  をクリックして  にし、手順 4 へ進みます。また、この場合、メールを自動的に受信するには、メールソフト側で「起動時に新着メールを自動的に取りこむ」設定をする必要があります。設定のしかたについては、各メールソフトのヘルプをご覧ください。

アドバイス



お使いになるときの注意

- ・ FM 便利ツールが起動しているときのみお使いになれません。
- ・ スクリーンセーバー動作中は、お使いになれません。マウスなどで一旦スクリーンセーバーから復帰させてからお使いください。

3 E-mail ボタンの設定を変更するとき

☞ 「メールソフト」欄からお使いになるメールソフトをクリックして  にし、「OK」をクリックします。これで設定は終了です。

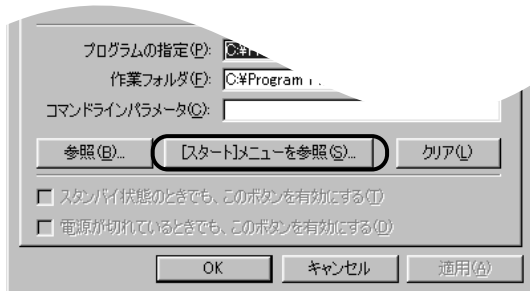
▶ Internet ボタンの設定を変更するとき

☞ 「ボタンが押されたら、その他のプログラムを起動する」の  をクリックして  にし、手順 4 へ進みます。

▶ Application ボタン 3 の設定を変更するとき

☞ 手順 4 へ進みます。

4 「[スタート]メニューを参照」をクリックします。



5 表示される一覧から登録するアプリケーション名をクリックし、「OK」をクリックします。

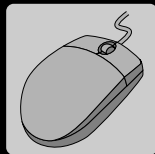
6 「OK」をクリックします。

かんたんメールボタンについて

キーボードの E-mail ボタン (☞ P.8) の操作と同じことが、パソコン本体前面のかんたんメールボタン (☞ P.2) で行えます。

Eメールが届くと、かんたんメールボタンが点滅してメールの着信を知らせてくれます。かんたんメールボタンを押すと、メールソフトが起動します。

また、「アプリケーションの割り当てを変更する」(☞ P.26) の手順に従って、E-mail ボタンの設定を変更すると、かんたんメールボタンに割り当てられているメールソフトも自動的に変更されます。



7

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、マウスで簡単に画面をスクロールすることができます。なお、使用するアプリケーションによって、動作が異なったり、お使いになれないことがあります。

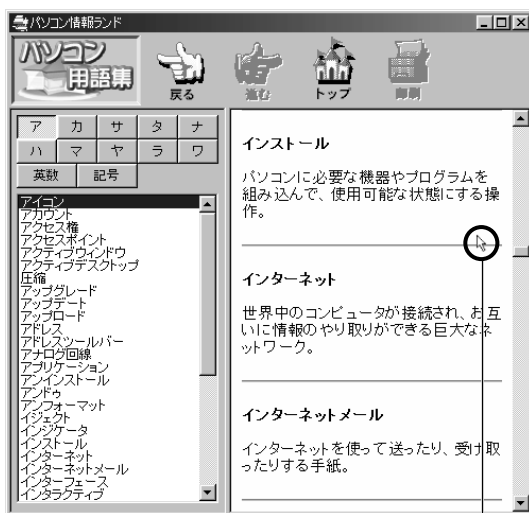
例として、ここでは画面マニュアル『パソコン情報ランド』の「パソコン用語集」でスクロールボタンを使って、右ウィンドウの用語説明を見てみましょう。

スクロールさせる～スライドして使う

- 1 見たい情報が表示されている領域(ここでは右ウィンドウの中)をクリックします。

スクロールする領域が確定します。

- 2 右ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。

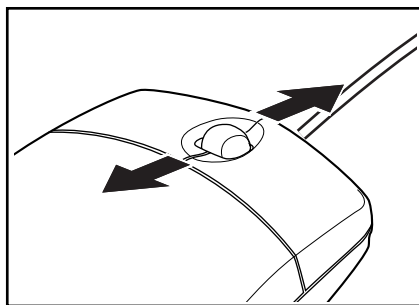


マウスポインタを合わせます

- 3 スクロールボタンを、マウスの後方へスライドさせます。

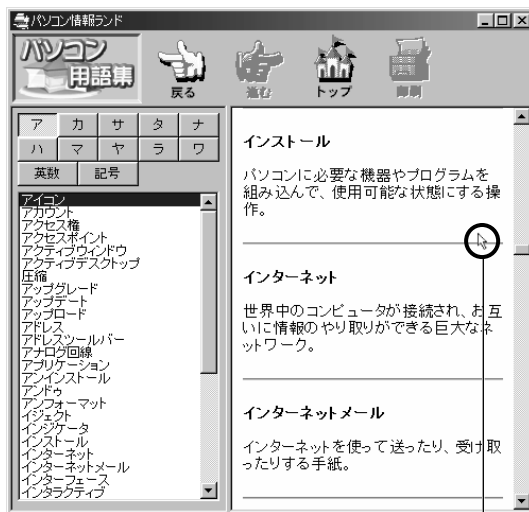
ウィンドウ中の表示がスクロールしていきます。

スクロールボタンをマウスの前方へスライドさせると、反対方向にスクロールしていきます。




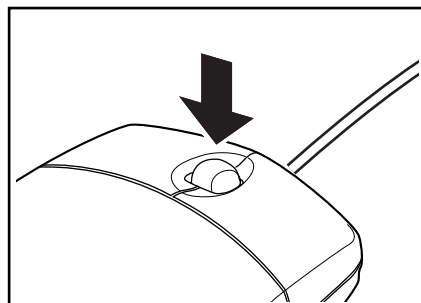
スクロールさせる～押して使う

1 右ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。



マウスポインタを合わせます


2 スクロールボタンを押します。
マウスポインタの表示が  に変わります。



3 スクロールさせたい方向にマウスを動かします。




マウスを動かします

ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。
マウスポインタの表示を  に戻すには、もう一度スクロールボタンを押すか、クリックしてください。

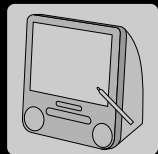
2

基本的な機能を使おう（スクロールボタンを使う）

 **アドバイス**
スクロールする速さを調整できます

スクロールボタンを押したところからマウスを動かしたところまでの距離によって、スクロールする速さを調整できます。





8

タッチパネルを使う

本パソコンでは、マウスの代わりにペンを使って操作することができます。

タッチパネルの使いかた

タッチ操作は必ず添付のペン（☞P.3）で行ってください。
ペンでの操作は、すべてクリック、ダブルクリックになります。右クリック、ドラッグ、ポイントなどの操作はマウスをお使いください。

クリック

画面を1回たたいて、すぐにペンを離します。
この操作を「タッチ」といいます。

ダブルクリック

画面をすばやく2回タッチします。

マウスは、タッチパネルを使っているときも同時にお使いになれます。アプリケーションで多用されている小さなアイコン、ボタン、メニュー、スクロールバーなどのウィンドウ操作にはマウスをお使いください。

タッチパネルをお使いになるときの注意

タッチパネルをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- ・タッチ操作は、800×600ドットの解像度（ご購入時の状態）でのみお使いになります。その他の解像度、全画面モードのMS-DOSプロンプト、タッチパネルの部分表示画面、仮想デスクトップには対応していません。
- ・「マウスのプロパティ」ウィンドウで、「ボタン」タブの「ボタンの選択」は必ず「右きき用」の設定でお使いください。また、「ダブルクリックの速度」は中間点と「遅く」の間に設定してください。「速く」の方向に設定すると、ダブルクリックが認識されない場合があります。
- ・「マウスのプロパティ」ウィンドウで、「動作」タブの「ポインタの速度」の設定は無効です。また、「ポインタの軌跡」の設定は、ペンをタッチパネルに接触したまま移動する操作（ドラッグ）に対応します。
- ・タッチパネルにはガラスを使用しておりますので、強い衝撃を与えないようにしてください。

ペンについて

ペンをなくしたときなどは、予備のペンをご購入ください。

- ・商品名：タッチパネル用ペン VP-PN3
- ・商品番号：0635082
（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

タッチパネルの補正

ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれているときには、補正ツールを使います。画面の指示に従って補正してください。

重要


タッチパネルを補正するときの注意

- ・ タッチパネルの補正をする前に、MS-IME のツールバーをタスクバーに入れてください。ツールバーにマウスポインタを合わせ、右クリックし、「タスクバーに入れる」をクリックすると、ツールバーの表示が消えます。
- ・ ペンと画面の位置精度は± 2mm です。そのため、タッチパネルの表示エリアの外周部分 2mm 程度は入力できない場合があります。
- ・ タッチパネルの補正中は、タッチパネルを指で触れないでください。
- ・ タッチパネルの補正では、「+」のマークにペン先を合わせて離れたときに認識されません。

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」 「Fujitsu Touch Panel」にマウスポインタを合わせ、「補正ツール」をクリックします。
白い補正画面が表示されます。
- 2** 画面の赤い「+」のマークの近くをペンでタッチし、タッチしたままペンを「+」のマークの交点に移動して、ペンをタッチパネルから離します。
このときマウスの位置は調整には無関係です。「+」のマークからずれていても構いません。ペンでタッチして離れた位置によって調整が行われます。
[Tab]を押すとマウスを表示しないようにできます。
- 3** 9カ所の赤い「+」のマークをペンで順次タッチしていきます。
ペンの先を「+」のマークの交点に合わせて正確にタッチしてください。
- 4** **[Enter]**を押します。
画面がテスト画面になります。
- 5** 画面の四隅や中央部分を軽くなぞって、正しく調整されているか確認します。
ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置が合っているか確認してください。補正が不十分なときは、**[Home]**を押して、手順2から操作し直してください。
- 6** 調整ができたことを確認し、**[Enter]**を押します。
「補正ツール」が終了します。

アドバイス

2 回続けてタッチしてしまったときは

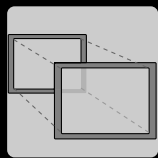
を押して「+」のマークを移動し、もう一度タッチし直します。

「補正点が不正です。再入力してください。」というメッセージが表示されたら

「OK」をクリックして、手順2から操作し直してください。

2

基本的な機能を使おう（タッチパネルを使う）



9

画面の解像度や発色数を変える

解像度を高く（大きい数字に）すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。ここでは、画面の解像度や発色数の変更のしかたを説明します。

表示できる解像度と発色数

本パソコンで表示できる解像度や発色数は次のとおりです。

解像度	設定可能な発色数	model 243
640×480ドット	256色	
	HighColor (16ビット)	
	TrueColor (32ビット)	
800×600ドット	256色	
	HighColor (16ビット)	
	TrueColor (32ビット)	

- ・ ○は表示可能、 はご購入時の設定です。
- ・ HighColor (16ビット) は6万5千色、TrueColor (32ビット) は26万色です。

重要

上の表に書かれている解像度、発色数のみお使いになれます

表に書かれている解像度、発色数以外は、お使いになれません。

タッチパネルは、ご購入時の解像度(800×600ドット)のみお使いになれます

640×480ドットでは、お使いになれません。

用語

解像度

縦横にどれだけの点(ドット)を表示できるかを示すものです。



アドバイス

解像度や発色数が指定されているときは

アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

解像度や発色数を変更する

重要

アプリケーションを終了してください

解像度、発色数を変更すると、再起動しなければならないことがあります。作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了させてから変更してください。

アクティブデスクトップを解除してください

解像度と発色数を変更する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98 の標準画面に切り替わります。


解像度と発色数を変更した後に、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

解像度や発色数を変更するとき

- ・ アプリケーションによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるアプリケーションの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- ・ 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがありますが、動作には問題ありません。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。


- 2  (画面) をクリックします。


「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 3 「設定」タブをクリックします。



4 解像度や発色数を変更します。

解像度を変更するには、「画面の領域」の  を左右にドラッグしてください。

発色数を変更するには、「色」の右側の  をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。

画面の領域
画面の解像度を指定します。

色
画面の発色数を指定します。




5 設定が終了したら「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従ってください。

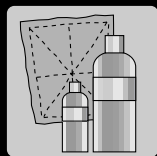
アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたときは

- 1 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」が  になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
- 2 「システム設定の変更」ウィンドウで「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

再起動を要求するメッセージが表示されなかったときは

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 2 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。



10

お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。

お手入れのしかたは、タッチパネル、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分にあったお手入れをしてください。

パソコン本体 / ACアダプタ / タッチパネル / キーボードのお手入れ



感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。
アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。
タッチパネル部分は、ガーゼなどの柔らかい布で拭いてください。

パソコン本体や AC アダプタを清掃するときは、必ず AC アダプタをパソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の通風孔(← P.4) にほこりがたまらないように、定期的に清掃してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体や AC アダプタ、タッチパネル、キーボードに水が入らないよう十分注意してください。

マウスのお手入れ



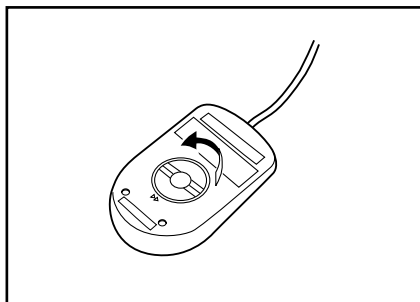
感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



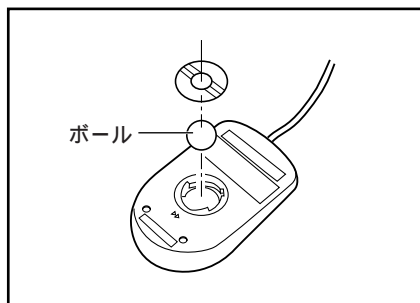
シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。
アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。

表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

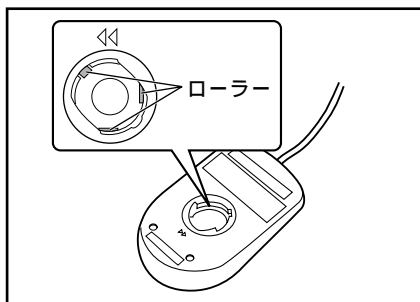
- 1** マウスの裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



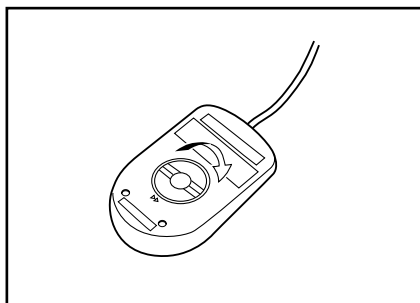
- 2** ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。
洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かしてください。



- 3** マウス内部の汚れを拭き取ります。
水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ボタンを拭きます。
ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



- 4** ボールをマウスに戻し、裏ボタンを矢印の方向に回して取り付けます。



アドバイス
ゴミは完全に除去してください
ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)

お手入れのしかた



けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れしないでください。けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、**[Enter]**を押します。
c:¥fjuty¥cIndsk 0
「cIndsk」と「0 (数字のゼロ)」の間は、を1回押してください。
- 3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、**[Enter]**を押します。
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングがはじまります。しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **×** (閉じるボタン) をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exit と入力し、**[Enter]**を押してください。

第 3 章

オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

1. オプション機器を取り付ける前に	40
2. つないで活用！！	44
3. パワーアップするために～本体カバーを取り外す～	58
4. メモリを増やす	60
5. 拡張カードを増設する	67
6. MO ドライブを増設する	72
7. ハードディスクを増設する	77



1

オプション機器を取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

取り付けられるオプション機器

別売りのオプション機器を取り付けると、こんなことができます。

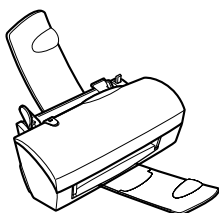
そのままつなごう！～本体カバーを外さないで接続できるもの～

文書や画像を印刷したい！

～プリンタを接続する～（☞P.44）

お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！

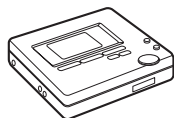
～デジタルカメラ/スキャナを接続する～（☞P.52）



オリジナルMDをつくりたい！

～MDレコーダーを接続する～

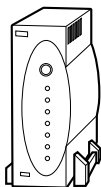
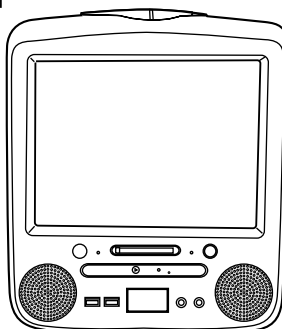
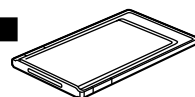
（☞P.56）



便利なカード！

～PCカードをセットする～

（☞P.48）



ISDN回線に接続するには？

～ターミナルアダプタを接続する～（☞P.54）

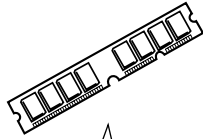


つないでラクラク！

～USB機器を接続する～（☞P.55）

パワーアップ! ~ 本体カバーを外して接続するもの ~

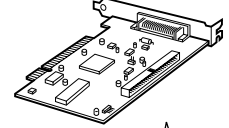
パソコンの処理をより快適にしたい!
~メモリを増設する~ (☛P.60)



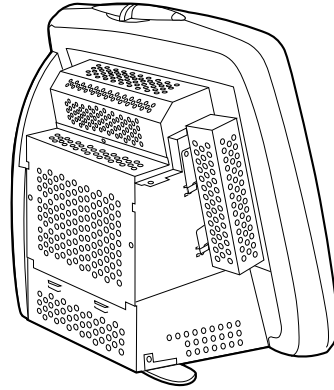
「メモリ容量が不足しています」のメッセージがよく出る

たくさんのアプリケーションを同時に使いたい

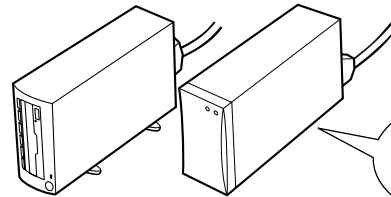
パソコンの機能を増やしたい!
~拡張カードを増設する~ (☛P.67)



ビデオの編集がしたい



たくさんのデータを持ち運びたい



ハードディスクの空き容量が少なくなってきた

よりたくさんのデータを保存したい!
~MOドライブを増設する~ (☛P.72)
~ハードディスクを増設する~ (☛P.77)

3

オプション機器を活用しよう! (オプション機器を取り付ける前に)

オプション機器の接続にあたって

本パソコンで別売りのオプション機器をお使いになるときは、次の流れにそって行ってください。

アドバイス

純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

オプション機器が ACPI 機能に対応していないときは

増設するオプション機器が ACPI に対応していないときは、本パソコンの設定を APM 機能に変更する必要があります。APM 機能への変更のしかたについては「APM について」(P.120)をご覧ください。

用語

ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OS とオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバが CD-ROM やフロッピーディスクなどで添付されています。

まずは準備から！必要なものを用意しよう

本パソコンは「PC/AT 互換機」という規格のパソコンです。

接続に使うケーブルも「PC/AT 互換機」と表示されたものを用意しましょう。

また、接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

準備が整ったら、いよいよ接続！

オプション機器によって取り付け方法が異なります。

必ずオプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

本体カバーを外さずに接続するもの

プリンタ、PC カード、
デジタルカメラ、スキャナ、
ターミナルアダプタ、USB 機器、
MD レコーダー など

本体カバーを外して接続するもの

メモリ、拡張カード、
MO ドライブ、
ハードディスク など

あと一歩！ドライバをインストールしよう

オプション機器には、接続するだけで使えるものと、設定作業が必要なものがあります。必ずオプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

完了！オプション機器を使いこなそう！

取り付けるときはここに注意！！！！

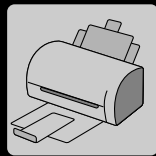
オプション機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- ・ Windows98 のセットアップは終了していますか？
Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。☞『取扱説明書』をご覧ください、Windows98 のセットアップを行ってください。
- ・ 一度に取り付けるオプション機器は 1 つだけ！
一度に複数のオプション機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。
- ・ 作業前にパソコン本体および接続されている機器の電源は OFF に！
安全のため、必ず AC アダプタを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

さらに本体カバーを取り外して作業する場合には、次のことにも注意してください。

- ・ 電源を切った直後は作業をしない！
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業をはじめましょう。
- ・ 内部のケーブル類や装置の扱いに注意！
傷つけたり、加工したりしないでください。
- ・ 一度大きな金属質のものに手をふれて静電気を放電しよう！
内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。
- ・ 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には触れないで！
金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。
- ・ 適切な工具を用意しよう！
パソコン本体のスロットカバーや金具などの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

なお、本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや分解、本パソコンの改造を行った場合は、保証の対象外となります。



2

つないで活用！！

ここでは、つなぐだけで簡単に使えるプリンタ、PCカード、デジタルカメラ、USB機器、MDレコーダーなどの接続について説明します。



感電 オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



故障

- ・オプション機器ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。
- ・オプション機器、およびオプション機器ケーブルは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のオプション機器、およびオプション機器ケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～

アドバイス

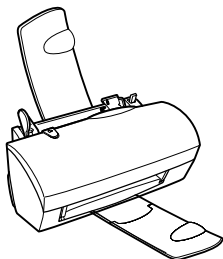
オプション機器の電源について

オプション機器の電源は、パソコン本体の電源より先に入れるのが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。詳しくは、オプション機器のマニュアルをご覧ください。

年賀状、カード、企画書・・・作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

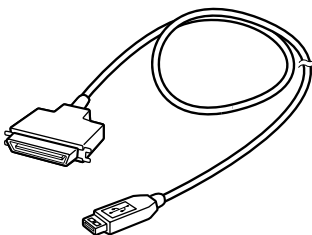
必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものがが必要です。



プリンタ

本パソコンでは、USBポートに接続するタイプのプリンタのみお使いになれます。Windows98で動作可能なものをご購入ください。



USB変換ケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。お使いになるプリンタにあわせて、別途ご購入ください。「PC/AT互換機」「DOS/V用」などと記載されているものをお使いください。USB変換ケーブルには、ケーブルのドライバとマニュアルが添付されています。

プリンタドライバ

プリンタに添付されています。プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT互換機用」「DOS/V用」などと記載されたものをお使いください。

プリンタのマニュアル

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびUSB変換ケーブルを取り付けて、正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

プリンタを接続する

プリンタはパソコン本体側面の USB ポート 4 (P.5) に接続します。

重要

プリンタは、Windows98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98 のセットアップ(取扱説明書)を行う前に取り付けると、Windows98 のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

プリンタは、USB ポート 4 に接続してください

パソコン本体側面の USB ポート 4 以外に接続すると、ドライバのインストールなど再度設定が必要になります。

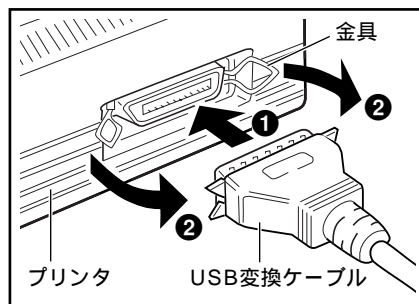
プリンタおよび USB 変換ケーブルのマニュアルもご覧ください

接続 / 設定方法は、プリンタおよび USB 変換ケーブルによって異なります。添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、すべての機器の電源プラグをコンセントから抜きます。

2 プリンタ側のコネクタの形に合わせて、USB変換ケーブルを接続します。

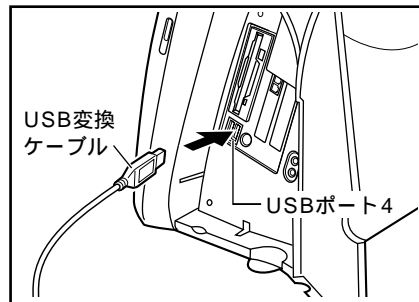
プリンタ側のコネクタの両側に金具が付いている場合は、金具で USB 変換ケーブルを固定してください。



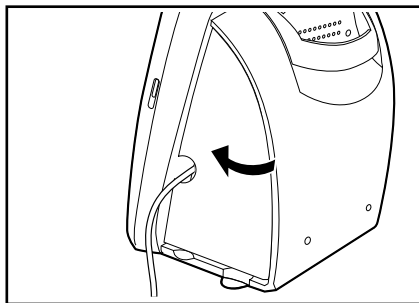
3 パソコン本体右側のクリアパネルを開きます。

4 パソコン本体側面の USB ポート 4 に、USB 変換ケーブルの USB コネクタを接続します。

USB コネクタのマークをパソコン本体前面側にして差し込んでください。



- 5** パソコン本体右側のクリアパネルを閉じます。



- 6** プリンタに電源ケーブルを接続します。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 7** パソコン本体および接続されているすべての機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。
- 8** プリンタの電源を入れます。
- 9** パソコン本体の電源を入れます。
初めて接続するプリンタの場合は、USB 変換ケーブルが自動検出されます。
- 10** USB 変換ケーブルに添付されているドライバをインストールします。
詳しくは、USB 変換ケーブルのマニュアルをご覧ください。
- 11** 続いてプリンタドライバをインストールします。
詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

ここに注意してください

- ・プリンタドライバをインストールするとき
 - ・プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、次の手順でドライバをインストールしてください。
 - 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
 - 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
 - 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。
 - ・Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。
「ファイルのコピー元」に `c:\¥windows¥options¥cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。
 - ・CD-ROMからプリンタドライバをインストールする場合に、CD-ROMドライブ名を指定するときは `e:¥` と入力してください。
- ・通常使うプリンタに設定してください
接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。



アドバイス

プリンタドライバのインストール中にエラーメッセージが表示されたときは

「閉じる」をクリックし、本パソコンを再起動してください。



用語

プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、プリンタやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

- ・ 弊社製プリンタ「XJ-350/XJ-550」をお使いのとき
 - ・ 必ず弊社製のUSB変換ケーブル(FMV-CBL721)をお使いください。
 - ・ 本パソコンには、次のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、USB変換ケーブルのドライバをインストールしたあとに、プラグアンドプレイでプリンタが認識され、自動的にプリンタドライバのインストールが始まります。画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。次に、USB変換ケーブルのマニュアルをご覧ください。「USBユーティリティ」をインストールしてください。
- XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年10月現在)
- ・ プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。弊社純正品の最新版のドライバは、インターネットのオンライン情報サービスにてご案内します。
 - @nifty富士通FMシリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFOでアクセスできます)
 - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)
- ・ 最新版のドライバのインストールは、次の手順で行ってください。

- 1 プリンタの電源を切ります。
- 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
- 3 本パソコンを再起動します。
- 4 Windows98が起動したら、プリンタの電源を入れます。
- 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。

本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。

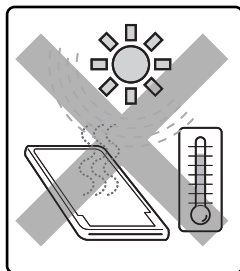
インストール方法などについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。

便利なカード！～ PC カードをセットする～

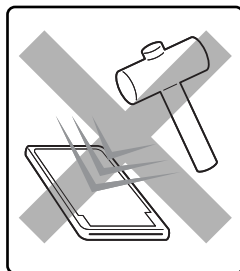
PC カードは、パソコンにさまざまな機能を追加するカードです。

気をつけてください～ PC カードを使うとき

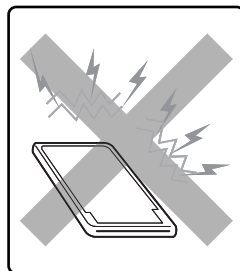
故障をふせぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。



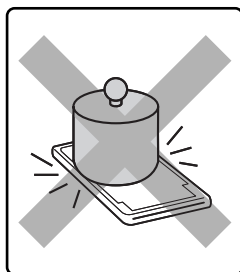
湿度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



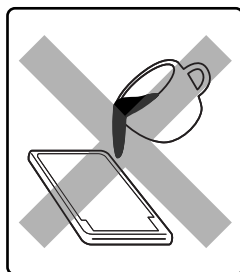
強い衝撃を与えないでください。



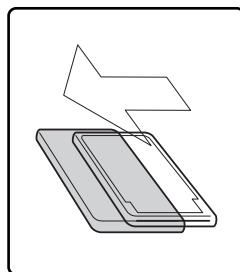
カードをこすったりして静電気を起こさないでください。



曲げたり重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

必要なものを用意する



PCカードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外をお使いになると、感電、火災または故障の原因となります。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の PC カードをセットして正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

💡 アドバイス

PCMCIA と JEIDA の規格に対応した TYPE と TYPE の PC カードが使えます

TYPE は3.3mm、TYPE は5mmの厚さです。

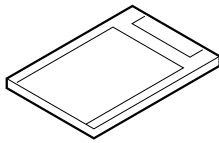
お使いになれないPCカードもあります

本パソコンでは、ZVポート、CardBus 対応の PC カードは使えません。

📖 用語

PCMCIA (ピーシーエムシーアイイー) と JEIDA (ジェイダ)

PCMCIA は、米国の PC カード標準化を推進する団体 Personal Computer Memory Card International Association の略称です。JEIDA は、日本電子工業振興会 (Japan Electronic Industry Development Association) の略称です。PCMCIA と JEIDA は共同で PC カードの規格を制定しています。一般的には、これらの団体が制定した規格のことを「PCMCIA」、「JEIDA」といいます。



PC カード

本パソコンでは、メモリカード、デジタル携帯電話接続カード、PHS 接続カードがお使いになれます。詳しくは、次の「コラム」をご覧ください。

PC カードのドライバ

PC カードによっては、CD-ROM やフロッピーディスクで添付されています。

PC カードのマニュアル

PC カードによって設定方法が異なります。必ず PC カードのマニュアルもご覧ください。



本パソコンでお使いになれる PC カードの種類

コラム

メモリカード

デジタルカメラなどの画像データを記録する PC カードです。記録メディアとも呼ばれます。代表的なメモリカードには、コンパクトフラッシュカードやスマートメディアカード、フラッシュ ATA カードなどがあります。メモリカードによっては、PC カード型アダプタにセットして使うものもあります。

デジタル携帯電話接続カード、PHS 接続カード

デジタル携帯電話や PHS を使って、インターネットをするときに必要な PC カードです。

セットする



注意



けが PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。

📢 重要

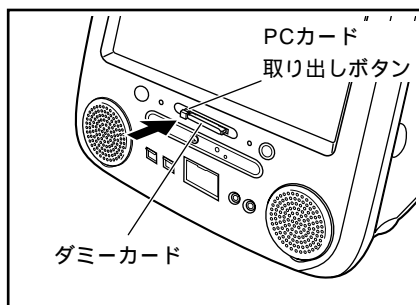
PC カードは、Windows 98 のセットアップ終了後にセットしてください

Windows 98 のセットアップ(☞『取扱説明書』)を行う前にセットすると、Windows 98 のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

PC カードをセットするときの注意

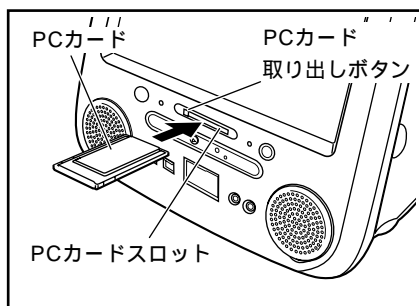
- ・ PC カードによっては、セットするときにパソコン本体の電源を切る必要のあるものがあります。PC カードのマニュアルをご覧ください。
- ・ PC カードをセットするときは、動画の再生、音楽の録音や再生を終了させてください。

- 1** PCカード取り出しボタンを押して、ダミーカードを取り出します。



- 2** 製品名のある面を上にして、PCカードをPCカードスロットに差し込みます。

PCカード取り出しボタンが飛び出すまで差し込んでください。



初めてセットするPCカードの場合は、ドライバのインストールという設定作業を行います。PCカードのマニュアルをご覧ください、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。



PCカードによっては、上記の画面は表示されず、自動的にドライバがインストールされることがあります。

取り出す

重要

PCカードを取り出すときの注意




- ・必ず手順どおりにPCカードを取り出してください。手順どおりに行わないと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。
- ・PCカードによっては、取り出すときにパソコン本体の電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルをご覧ください。


アドバイス

PCカードの接続部分についての注意

PCカードとコードやケーブルを接続している接続部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

注意

-   けが PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
-  高温 使用した直後のPCカードは、高温になっているときがあります。PCカードを取り出すときは、使用后しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

- 1 タスクバーの  (PCカード) をクリックします。
- 2 「××××××の中止」をクリックします。
××××××には、お使いのPCカードの名称が入ります。

重要

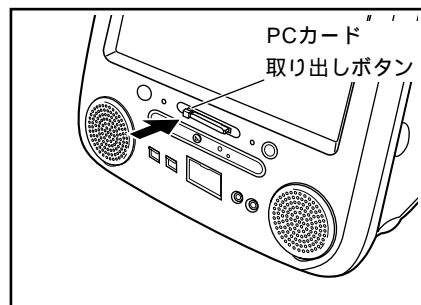
必ず「XXXXXXの中止」をクリックしてください

「XXXXXXの中止」をクリックせずに、PCカードを取り外すと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。

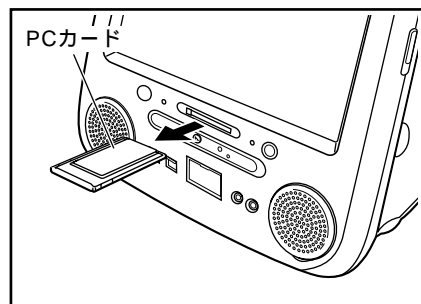
- 3 「OK」をクリックします。



- 4 PCカード取り出しボタンを押します。
PCカードが出てきます。



- 5 PCカードを取り出します。



アドバイス

「このデバイスは取りはずせません」というメッセージが表示されたら

「OK」をクリックして、パソコン本体の電源を切ってから手順4へ進んでください。

☞「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.13)

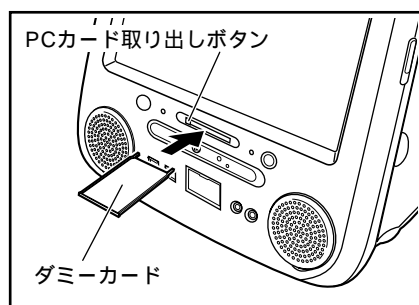
アドバイス

コードやケーブルを引っ張らないでください

コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードを取り出すときは、コードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。

6 ダミーカードをPCカードスロットにセットします。

PCカード取り出しボタンが飛び出すまで差し込んでください。

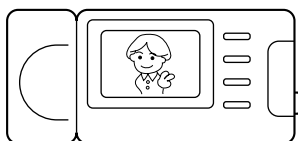


お気に入りのイラストや写真を取り込みたい! ~デジタルカメラ/スキャナを使う~

お気に入りのイラストや写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい・・・
そんなときはデジタルカメラやスキャナを接続します。

必要なものを用意する(デジタルカメラ)

デジタルカメラを使うには、次のものがが必要です。



デジタルカメラ

デジタルカメラは、画像をデジタル情報として記録するカメラで、各社から発売されています。

デジタルカメラからパソコンに画像データを取り込む方法は、お使いのデジタルカメラによって次のように異なります。

- ・ PCカード(☞P.48)やフロッピーディスクを使って画像データを取り込むもの
 - ・ パソコン本体前面のシリアルコネクタ(☞P.3)やUSBポート(☞P.2)に接続して画像データを取り込むもの
- デジタルカメラのマニュアルをご覧ください、必要なものをご用意ください。

専用ケーブル

デジタルカメラをパソコン本体に接続するには、専用ケーブルが必要です。ケーブルはデジタルカメラに添付されている場合もあります。

ソフトウェア

撮影した写真をパソコンに取り込むためのソフトウェアや、撮影した写真を見たり、文字やイラストを入れて編集したりするためのソフトウェアが必要です。これらのソフトウェアは、デジタルカメラに添付されている場合もあります。

本パソコンには、写真をいろいろ活用できるソフトウェア「らくらく写真館」が添付されています。

デジタルカメラのマニュアル

デジタルカメラを使うには

ご購入されたデジタルカメラによって、接続方法が異なります。

PC カードスロットに接続するもの


「便利なカード！～ PC カードをセットする～」(☞P.48)をご覧ください。

パソコン本体前面のシリアルコネクタに接続するもの

ケーブルで、デジタルカメラとパソコン本体前面のシリアルコネクタ(☞P.3)をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタの両側のネジをしめて固定してください。

パソコン本体前面の USB ポートに接続するもの

「つないでらくらく！～ USB 機器を接続する～」(☞P.55)をご覧ください。

なお、デジタルカメラの活用について詳しくは、『使いこなす本ソフト編』をご覧ください。

必要なものを用意する(スキャナ)

スキャナを使うには、次のものが必要です。

スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにもハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。パソコン本体前面の USB ポート(☞P.2)に接続するものや SCSI カードという拡張カードを使うもの(SCSI 規格)などがあります。

スキャナには TWAIN という規格があり、フォトタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN 対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。



アドバイス

SCSI 規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗(ターミネータ)が必要になります。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「MO ドライブを増設する」の「必要なものを用意する」(☞P.73)をご覧ください。

フォトタッチソフト(画像を加工するソフトウェア)

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。

本パソコンには、「らくらく写真館」というフォトタッチソフトが添付されています。また、スキャナに添付されているフォトタッチソフトもあります。さらに多くの機能を使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

スキャナのドライバ

スキャナに添付されています。

スキャナのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows 98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

スキャナのマニュアル



用語

SCSI (スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格の機器には、スキャナのほかに、MO ドライブやハードディスクなどがあります。

TWAIN (トゥウエイン)

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

パソコン本体前面の USB ポートに接続するもの

「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」(☛P.55)をご覧ください。

SCSI カードに接続するもの

SCSI カードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたなどについては「拡張カードを増設する」(☛P.67)をご覧ください。

SCSI カードを取り付けたあとに、SCSI ケーブルで SCSI カードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗 (ターミネータ) という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

ISDN 回線に接続したい！～ターミナルアダプタを接続する～

ISDN 回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい・・・そんなときはターミナルアダプタを接続します。

ISDN 回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。になるか、NTT にお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものがが必要です。

ターミナルアダプタ

ISDN 回線に接続するために必要な機器です。

USB ポート (☛P.2) に接続可能なものをご購入ください。

専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

ターミナルアダプタのドライバ

ターミナルアダプタによっては、ドライバが必要なものがあります。ターミナルアダプタに添付されているドライバをご用意ください。

ターミナルアダプタのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows 98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

ターミナルアダプタのマニュアル

ターミナルアダプタを接続するには

パソコン本体前面のUSBポート(☛P.2)に接続します。接続方法について詳しくは、「つないでらくらく! ~ USB 機器を接続する~」(☛P.55)をご覧ください。
また、ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU(ディーエスユー)という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。NTTにお問い合わせください。

つないでらくらく! ~ USB 機器を接続する ~

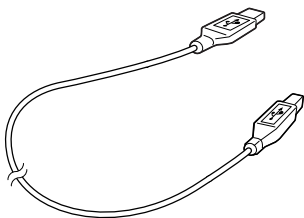
USB 機器を接続して、自分の思いどおりのパソコンにしましょう。
プリンタの接続については、「文書や画面を印刷したい! ~ プリンタを接続する ~」(☛P.44)をご覧ください。

必要なものを用意する

USB 機器を使うには、次のものがが必要です。

USB 機器

本パソコンに添付されているマウス、キーボードの他に、CCDカメラやターミナルアダプタなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。



USB ケーブル

USB機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB機器に添付されている場合もあります。
マウスなどのようにケーブルが不要なものもあります。

USB 機器のドライバ

通常はUSB機器に添付されています。

USB 機器のマニュアル

USB 機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

重要

接続する USB 機器の消費電流を確認してください

USB機器のマニュアルをご覧ください。消費電流をご確認のうえお使いください。同時に使用する場合は、接続するUSB機器の合計の電流が500mA以下となるようにお使いください。例えば、USBポート1に500mA消費するUSB機器(スキャナなど)を接続した場合は、USBポート2がお使いになれません。

電流の合計が500mAを超えるものを取り付けて、正常に動かなかつたり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

用語

USB(ユーエスピー)

Universal Serial Bus という規格の略称です。USB規格に対応している機器には、次のようなものがあります。

- ・マウス
- ・キーボード
- ・プリンタ
- ・ターミナルアダプタ
- ・スピーカー
- ・デジタルカメラ
- ・スキャナ
- ・CCDカメラ

アドバイス

USBハブをお使いになるときは

ACアダプタ付きのUSBハブのみお使いになれます。

アドバイス

本体側面のUSBポートには

次のもの以外は接続しないでください。

- ・USBポート3
: 添付のキーボード
- ・USBポート4
: プリンタ



アドバイス

お使いにならないときは


カバーを閉じておいてください。

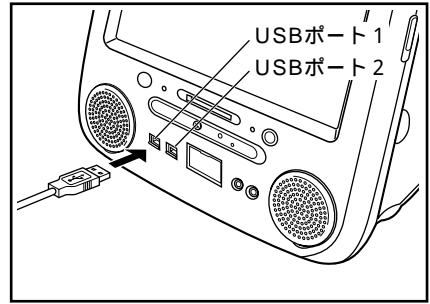
パソコン本体の電源を入れたままでも接続できます

USB機器は、パソコン本体の電源を切らずに、抜き差しできます。

- 1 パソコン本体前面のUSBポートのカバーを下にスライドさせ、USB機器のケーブルを接続します。

USBポート1、USBポート2のどちらに接続しても構いません。

USB機器のケーブルのコネクタのマークを上にして差し込んでください。



- 2 ドライバをインストールします。

ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使えるUSB機器もあります。詳しくは、USB機器のマニュアルをご覧ください。

オリジナルMDをつくりたい! ~ MDレコーダーを接続する ~

MD(エムディ)レコーダーを接続して、自分だけのオリジナルMD(ミニディスク)をつくることができます。

MDレコーダーの接続について詳しくは、MDレコーダーのマニュアルをご覧ください。

必要なものを用意する

MDレコーダーを接続するには、次のものがが必要です。

MD

MDは音楽をデジタル情報として記録する8cmのディスクで、各社から発売されています。

MDレコーダー

再生専用のものはお使いになれません。録音可能なものをお使いください。

また、サンプリング周波数48kHzに対応し、光デジタルオーディオ入力端子を搭載したものをお使いください。

光デジタルオーディオケーブル

本パソコンで使用できる光デジタルオーディオケーブルの組み合わせは次のとおりです。

パソコン側	MD側
丸形(光ミニプラグ)	丸形(光ミニプラグ)
丸形(光ミニプラグ)	角形(光ミニプラグ)



アドバイス

出力可能な音源はWAVEとMIDIです

出力されるサンプリング周波数は48kHzのみです。



MD レコーダーを接続する

MD レコーダーを接続する前に、光デジタルオーディオ出力を有効にする設定を行います。

重要

光デジタルオーディオ出力端子をお使いになるときは

次の手順に従って、光デジタルオーディオ出力端子の設定を有効にしてください。

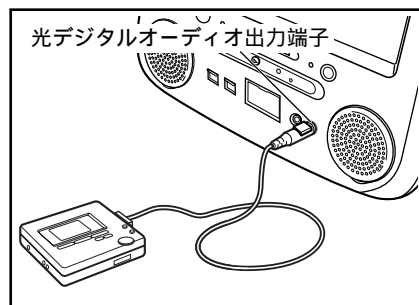
- 1 タスクバーの  (音量) を右クリックします。
- 2 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。
「マスタ音量」ウインドウが開きます。
- 3 「オプション」メニューの「トーン調整」をクリックします。
「マスタ音量」に「トーン」が表示されます。
- 4 「トーン」をクリックします。
「マスタ音量の詳細設定」ウインドウが開きます。
- 5 「そのほかの調整」にある「1. SPDIF (1)」の をクリックし、 にします。
- 6 「閉じる」をクリックします。
- 7 「マスタ音量」ウインドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。
「マスタ音量」ウインドウが閉じます。


アドバイス

MD レコーダーのみ
お使いになれます

ヘッドホン端子と光デジタルオーディオ出力端子は共用です。そのため MD レコーダーをお使いのときは、ヘッドホンがお使いになれません。

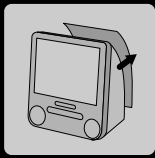
- 1 パソコン本体前面の光デジタルオーディオ出力端子と MD レコーダーを光デジタルオーディオケーブルで接続します。



MD に録音する方法については、 『使いこなす本ソフト編』をご覧ください。

3

オプション機器を活用しよう！（つないで活用!!）



3

パワーアップするために～本体カバーを取り外す～

パソコンの内部にいろいろなオプション機器を取り付けて、パソコンをパワーアップすることができます。

本体カバーは、次の作業を行うときに取り外します。

- ・メモリを取り付けるとき
- ・拡張カードを取り付けるとき



感電 本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



誤飲 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



けが 本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

本体カバーを取り外す

- 1** パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、すべての機器の電源プラグをコンセントから抜きます。

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってください。

- 2** ACアダプタをパソコン本体から取り外します。

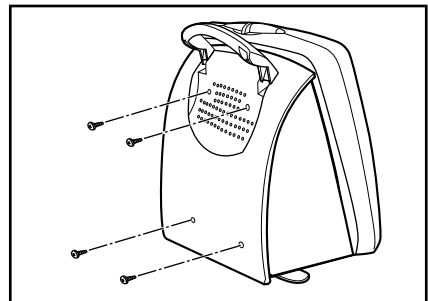
- 3** 取っ手を垂直に持ち上げます。

- 4** パソコン本体底面の本体チルトフットを起こします。

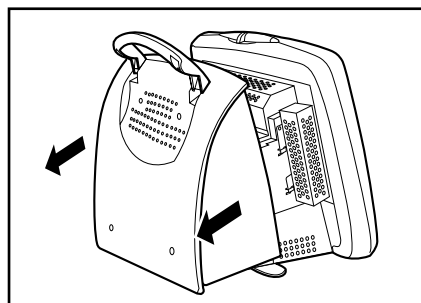
- 5** パソコン本体背面のラバーキャップ（2カ所）を外します。

ラバーキャップは、下側のネジ穴（2カ所）に付いています。

- 6** パソコン本体背面のネジ（4カ所）を外します。



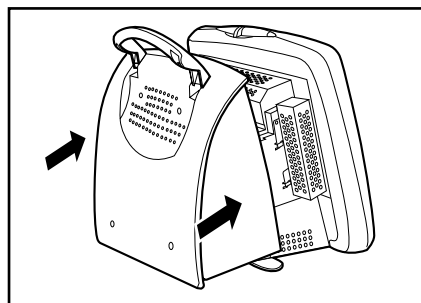
- 7** 本体カバーを矢印の方向に取り外します。
パソコン本体背面に向けてスライドさせてください。



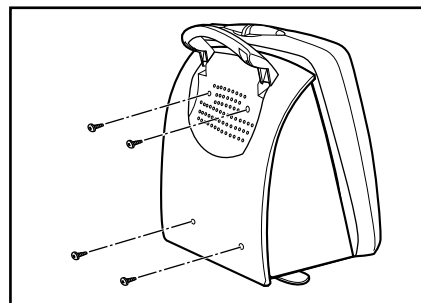
- ▶ メモリを取り付ける場合 ← P.63 手順 2 へ
- ▶ 拡張カードを取り付ける場合 ← P.70 手順 2 へ

本体カバーを取り付ける

- 1** 本体カバーを取り付けます。
パソコン本体前面に向けてスライドさせます。



- 2** パソコン本体背面のネジ（4カ所）を取り付けます。

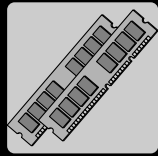


- 3** パソコン本体背面にラバーキャップ（2カ所）を取り付けます。
ラバーキャップは、下側のネジ穴（2カ所）に取り付けます。
本体チルトフットは、お使いの状況により元に戻してください。

- 4** ACアダプタをパソコン本体に接続します。

- 5** パソコン本体および接続されているすべての機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。

- ▶ メモリを取り付けた場合 ← P.65 「メモリ容量を確認してください」へ
- ▶ 拡張カードを取り付けた場合 ← P.71 手順 10 へ



4

メモリを増やす

「複数のアプリケーションを起動したら、パソコンの動作が遅くなった」「大きなファイルを使おうとするとメモリ不足と表示されてしまう」

このような場合には、本パソコンのメモリを増やすと、パソコンの処理がより速く快適になります。

メモリを増やすとは？

メモリとはどんなもの？

メモリは、CPUが処理するデータやプログラムを一時的にためておく装置です。プログラムやデータは本パソコンに内蔵されているハードディスクに保存されていますが、CPUが処理するたびにハードディスクから読み込んでくると時間がかかります。CPUがメモリからデータを読み込む速度はハードディスクからデータを読み込む速度よりも速いので、必要なプログラムやデータをメモリにためておけば処理が速くなります。メモリは、よく「机」にたとえられます。勉強や仕事をするときに引き出しから本や書類を取り出して机の上に広げるように、ハードディスクに保存されているプログラムやデータが、メモリという「机の上」に広げられているのです。

メモリを増やすとパソコンの動作が速くなる

複数のアプリケーションを同時に動かしたり、データを一度にたくさん読み込むと、メモリはどんどん使われてしまいます。

机の上に本やノートを広げると空いた場所がなくなるのと同じです。

机が大きければ本やノートをたくさん広げられますが、机が小さいと少ししか広げることができません。

同じように、メモリも大きければ大きいほど、たくさんのアプリケーションやデータを読み込むことができるようになり、快適に操作できます。

メモリの大きさは「容量」と呼ばれ、32MB、64MBというように表されます。

別売りのメモリを本パソコンに増設してメモリの容量を増やすと、「机」が広がったことになりパソコンの動作が速くなります。

用語

CPU(シーピーユー)

Central Processing Unitの略で、パソコンの中核頭脳部分ともいわれる、中央処理装置のことです。

用語

MB(メガバイト)

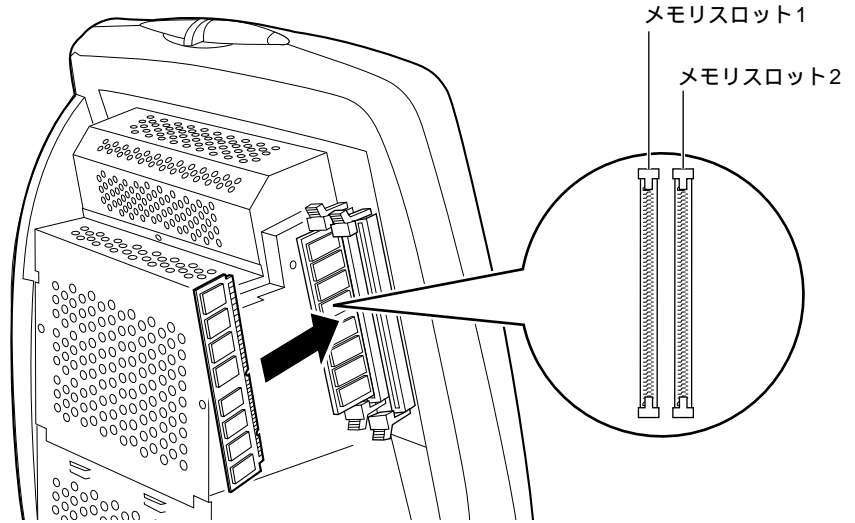
バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさを表す単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

メモリはどこにある？

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。本パソコンのご購入時は、メモリスロット 1 に 64MB のメモリが 1 枚取り付けられています。

メモリ容量を増やすには、メモリスロット 2 に、新たにメモリを取り付けます。メモリは、最大 192MB (64MB+128MB) まで増やせます。

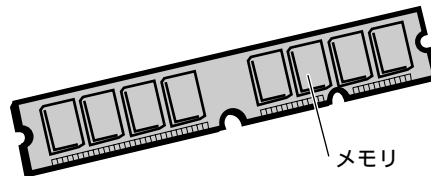


3

オプション機器を活用しよう！（メモリを増やす）

取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次のようなものです。



- ・種類 SDRAM (エスディーラム) DIMM (ディム) (SPD付き)
- ・システムバスクロック 66MHz
- ・ピン数 168ピン
- ・容量 32MB、64MB、128MB
- ・ECC なし

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて、正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリは、66MHz 対応のものをお使いください。

用語

SPD(エスピーディー)

Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。

必ず SPD 付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製の SDRAM は、SPD 付きです。

ECC(イーシーシー)

Error Correcting Codeの略で、データ中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。

本パソコンでは、この機能は使いません。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。
表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1 (DIMM1)	メモリスロット2 (DIMM2)
64MB(ご購入時)	64MB	なし
96MB	64MB	32MB
128MB	64MB	64MB
192MB(最大)	64MB	128MB

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。



感電 メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



誤飲 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪くて飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



けが メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが 基板表面上の突起物には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



故障 ・メモリは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
・メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

重要

メモリは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(☛『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

メモリを取り付けるときは、電源を切り、すべての機器の電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。

取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリは何度も抜き差ししないでください

故障の原因となることがあります。

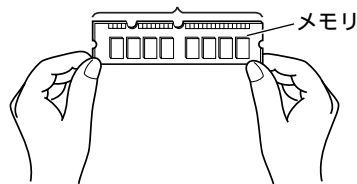


アドバイス

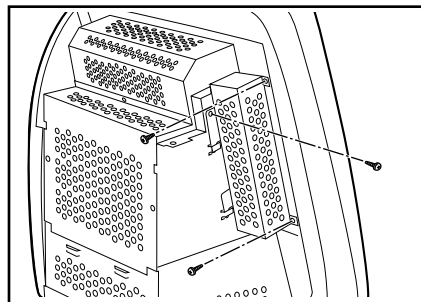
メモリの持ちかた

メモリは右図のようにふちを持ってください。
金色の線が入っている部分(端子)には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。

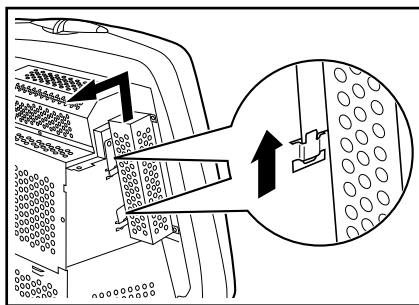


- 1 「本体カバーを取り外す」(☛P.58)をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2 メモリカバーのネジ(3カ所)を外します。



3 メモリカバーを矢印の方向に取り外します。

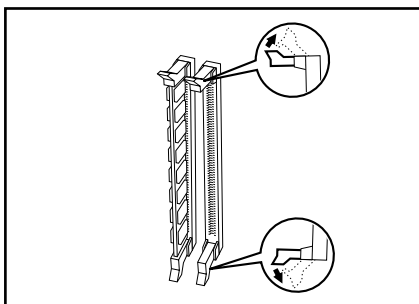
メモリカバーを垂直に少し持ち上げてから、パソコン本体背面に向かってスライドさせます。



4 メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリの取り付け場所については、「メモリはどこにある？」(P.61)をご覧ください。

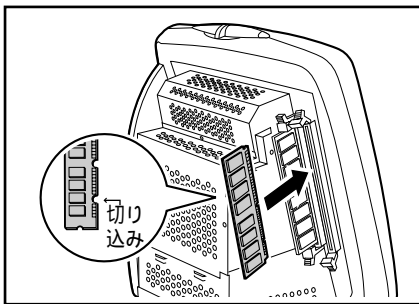
メモリの容量と組み合わせについては、「メモリの組み合わせ表」(P.62)をご覧ください。



5 メモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方を下側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要

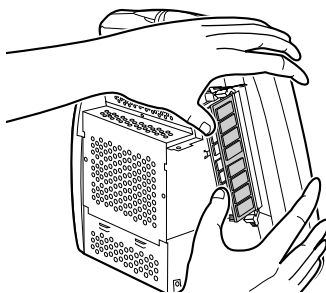
メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

アドバイス

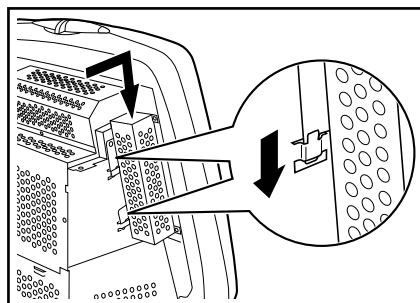
メモリを差し込むときは

タッチパネルに触れないように、手でメモリをしっかりと押し込んでください。



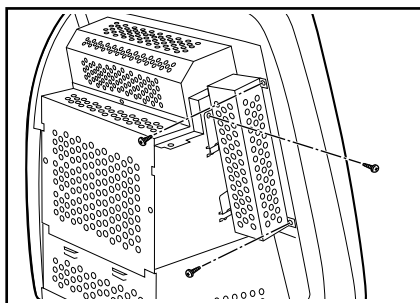
6 メモリカバーを矢印の方向に取り付けます。

メモリカバー左横の突起(2カ所)をパソコン本体の溝に差し込みます。



7 手順2で外したメモリカバーのネジ(3カ所)を付けます。

ネジは固くしめすぎないようにしてください。




8 「本体カバーを取り付ける」(P.59)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。

メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。

必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 ○で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。

アドバイス

電源を入れても何も表示されないときはメモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。

その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。



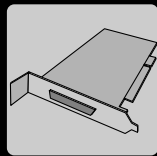
画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。
お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

5 「OK」をクリックします。

6 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の **X**(閉じるボタン) をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- ・ 増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものか ➡ 「取り付けられるメモリ」(P.61)
- ・ メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか ➡ 「メモリを取り付ける」(P.62)
- ・ 正しいスロットに取り付けられているか ➡ 「メモリはどこにある？」(P.61)
- ・ メモリを正しく組み合わせているか ➡ 「メモリの組み合わせ表」(P.62)



5

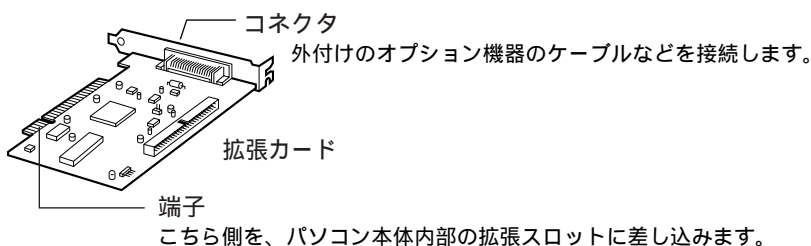
拡張カードを増設する

本パソコンにさまざまな機能を追加したいときは、拡張カードを取り付けます。ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるために必要なものや、必要な作業について説明します。

拡張カードとは？

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。

たとえば、パソコンにビデオの画面を取り込んで編集したいとか、複数台のパソコン同士でネットワークを組んで使いたいといったときに拡張カードを増設して、それらの機能をパソコンに追加します。



代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、次のものがあります。

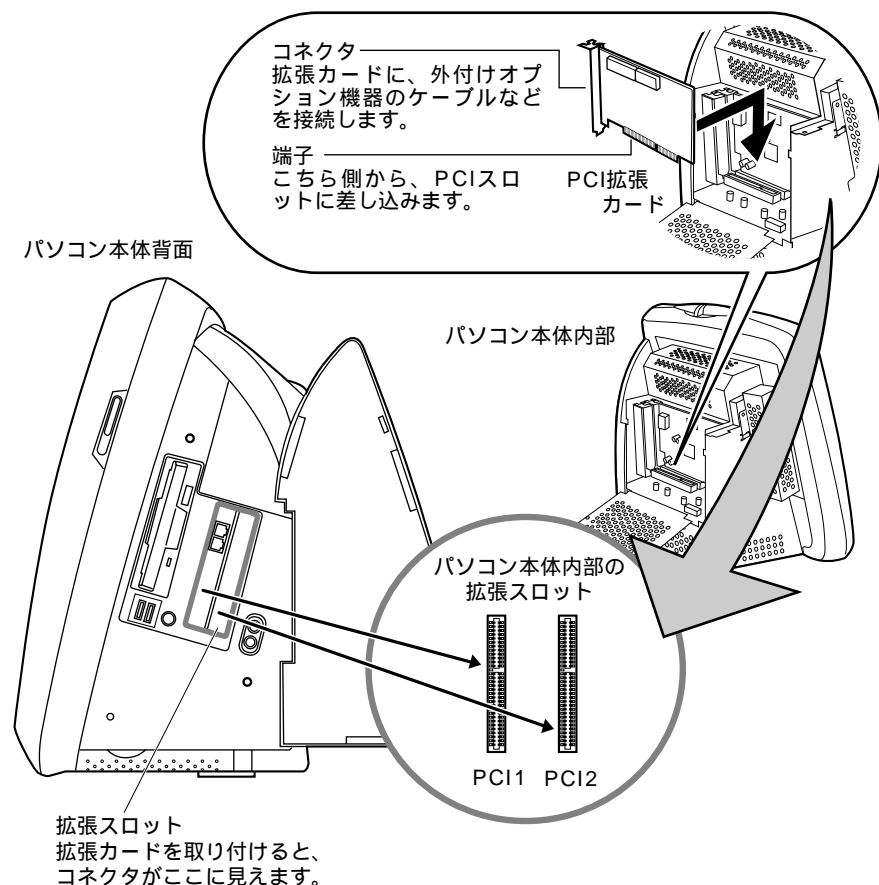
- ・ SCSI カード
SCSI 規格の MO（光磁気ディスク）ドライブやハードディスクなどを接続するときに必要な拡張カードです。
SCSI 規格の MO ドライブについて詳しくは「MO ドライブを増設する」(P.72)をご覧ください。また、ハードディスクについて詳しくは「ハードディスクを増設する」(P.77)をご覧ください。
- ・ モデムカード
パソコン通信、インターネット、FAX 送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話としてもお使いになれます（専用のソフトウェアが必要です）。
本パソコンには、ご購入時にあらかじめ FAX / ボイスモデムカードが取り付けられています。
- ・ LAN カード
複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LAN カードでパソコンやプリンタを接続するには、LAN ケーブルなどの LAN 機材も必要となります。
- ・ IEEE1394 カード
DV 端子搭載のデジタルビデオカメラなどから、動画をパソコンにデータとして取り込むための拡張カードです。
取り込んだ動画は、編集も可能です。

お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「PCI(ピーシーアイ)」という規格に対応した拡張カードがお使いになれます。

拡張カードは、パソコン本体内部の空いている「拡張スロット」に取り付けます。

また、拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」の2つがあります。本パソコンでは、ハーフサイズの拡張カードのみ増設できます。



拡張スロットは、パソコン本体前面側から順に PCI1、PCI2 となっています。

拡張スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	FAX / ボイスモデムカードを搭載済み	—————
PCI2	空き	ハーフサイズ(176.41mmまで)



用語

プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他の機器を接続しただけで使えるようになります。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。本パソコンで使えるPCI規格の拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。

プラグアンドプレイに対応しているPCI規格の拡張カードを増設するときは、拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものがが必要です。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

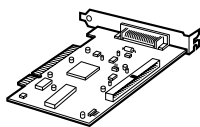
純正品以外の拡張カードを取り付けて、正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

アドバイス

お使いになる拡張カードによっては

お使いになる拡張カードが必要とするIRQが、本パソコンの空いているIRQに設定できない場合や、空きIRQがない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。

詳しくは、「IRQを解放する」（P.104）をご覧ください。



PCI規格の拡張カード

拡張カードのドライバ

拡張カードによっては、添付されていないこともあります。

拡張カードのマニュアル

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける方法について説明します。



拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。

また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



拡張カードは、弊社純正品をお使いください。

純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。

アドバイス

SCSI カードを取り付けるときは

SCSIカードのSCSI IDは7番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。

詳しくは、SCSIカードのマニュアルでご確認ください。

重要

拡張カードは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

電源を切ったあと10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

拡張カードを取り付けるときは、電源を切り、すべての機器の電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

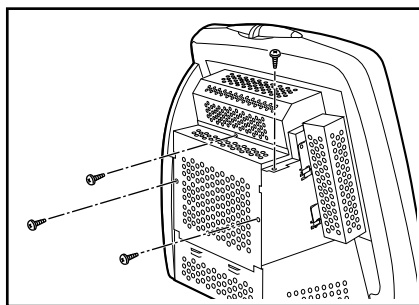
拡張カードはしっかりと差し込んでください

拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。

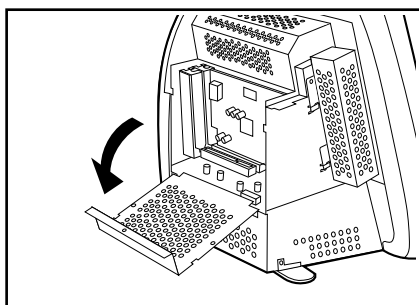
完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

1 「本体カバーを取り外す」(P.58)をご覧ください、本体カバーを取り外します。

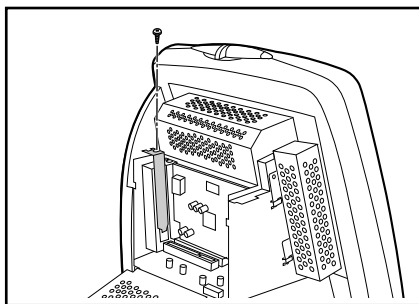
2 背面カバーのネジ(4カ所)を外します。



3 背面カバーを矢印の方向に取り外します。



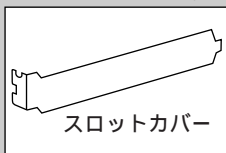
4 ネジ(1カ所)を外して、スロットカバーを取り外します。



アドバイス

スロットカバーは保管してください

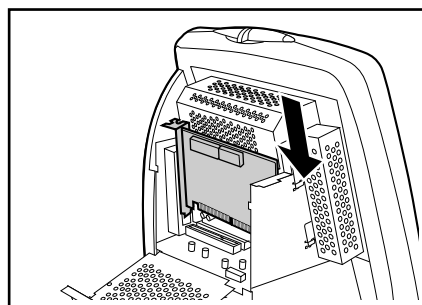
取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。



スロットカバー

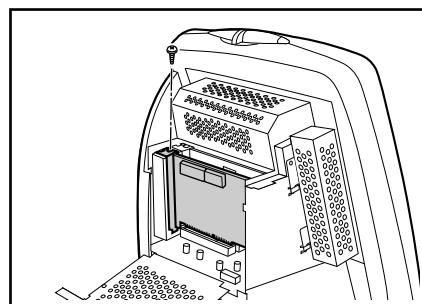
5 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。

拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



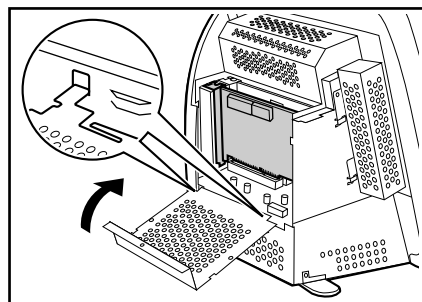
6 手順4で外したスロットカバーのネジ(1カ所)で、拡張カードを固定します。

ネジは固くしめすぎないようにしてください。



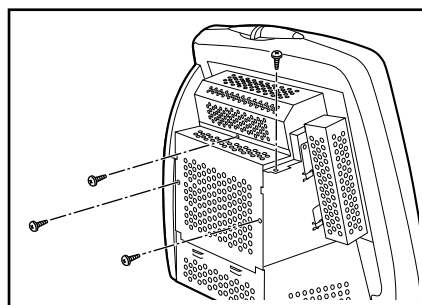
7 背面カバーを矢印の方向に取り付けます。

背面カバー下の突起(2カ所)をパソコン本体の溝に差し込んでください。



8 手順2で外した背面カバーのネジ(4カ所)を付けます。

ネジは固くしめすぎないようにしてください。



9 「本体カバーを取り付ける」(P.59)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。

10 パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧ください、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。自動的にドライバがインストールされる場合もあります。

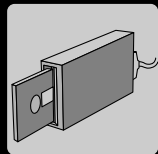
拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合は、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。

💡 アドバイス

「コンピュータを終了しますか?」というメッセージが表示されたら

「はい」をクリックしてください。パソコン本体の電源が切れます。

10秒ほど待ってから、もう一度パソコン本体の電源を入れてください。ドライバのインストールが完了します。



6

MOドライブを増設する

MO(光磁気ディスク)ドライブを増設すると、本パソコンでMOがお使いになります。MOを使うとフロッピーディスクと比べて大量のデータを保存できます。

MOとは？

MO(エムオー)ドライブとは、レーザーと磁気でMO(光磁気ディスク)にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。

MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。128MB、230MB、540MB、640MB、1.3GBの容量のものが市販されています。フロッピーディスクと同じように、フォーマットしてからお使いください。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる目的に応じた容量のMOドライブをご購入ください。

お使いになれるMOドライブ

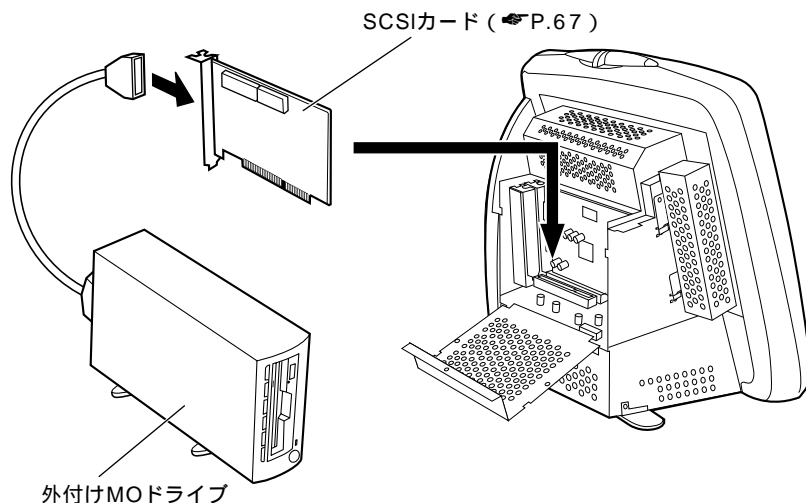
MOドライブには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。本パソコンでは、SCSI規格の外付けMOドライブを増設できます。内蔵MOドライブはお使いになれません。

SCSI規格のMOドライブを使うには、SCSIカードという拡張カードが必要です。

用語

SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、MOドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。



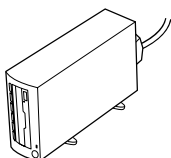
必要なものを用意する

外付け MO ドライブを取り付けるときには、次のものがが必要です。

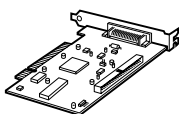
重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の外付け MO ドライブ、SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

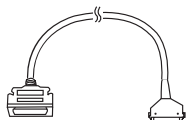


SCSI 規格の外付け MO ドライブ



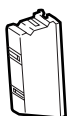
SCSI カード (P.67)

SCSI 規格の外付け MO ドライブを取り付けるときに必要な拡張カードです。



SCSI ケーブル

SCSI カードと外付け MO ドライブを取り付けるときに必要なケーブルです。SCSI 規格のコネクタには数種類あります。お使いになる SCSI カードと外付け MO ドライブに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。



終端抵抗 (ターミネータ)

電気信号が、SCSI ケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。外付け MO ドライブには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

詳しくは次ページの「コラム」をご覧ください。

外付け MO ドライブと SCSI カードのマニュアル



終端抵抗（ターミネータ）とは

コラム

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI規格の外付けMOドライブを1台増設した場合は、SCSIカードと外付けMOドライブが両端となります。

SCSIカードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSIカード上のジャンプスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要のあるものもあります。

外付けMOドライブを取り付ける



警告



感電

外付けMOドライブの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。



誤飲

取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



故障

- ・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。
- ・外付けMOドライブは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のMOドライブをお使いになると、故障の原因となる場合があります。



けが

外付けMOドライブの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをされるおそれがあります。また、故障の原因となる場合があります。



重要

SCSIカードと外付けMOドライブは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップ(『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

1 外付けMOドライブとSCSIカードのSCSI IDを設定します。

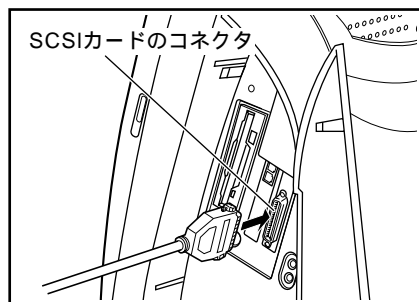
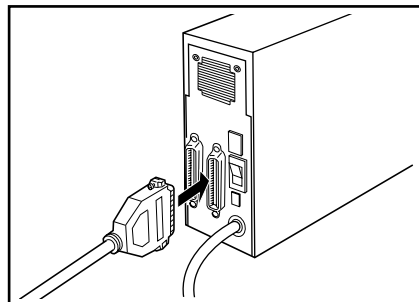
SCSI規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI IDは0から7番までの番号があります。SCSIカードには、通常7番が設定されています。SCSI IDが設定されていないSCSIカードをお使いになるときは、SCSI IDを7番に設定してください。外付けMOドライブは、それ以外の番号(0～6番)を設定してください。設定のしかたについては、SCSIカードと外付けMOドライブのマニュアルをご覧ください。

2 SCSIカードを取り付けます。

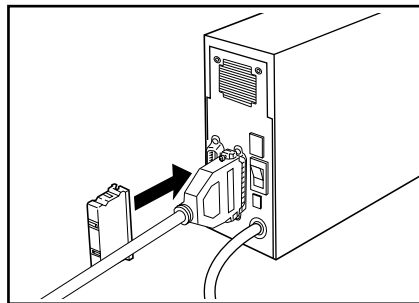
取り付けかたなどについて詳しくは、「拡張カードを増設する」(P.67)をご覧ください。

3 パソコン本体右側のクリアパネルを開きます。**4** SCSIカードのコネクタに、SCSIケーブルを接続します。

SCSIケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体側面にあるSCSIカードのコネクタに接続します。

**5** 外付けMOドライブのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。**6** 外付けMOドライブに終端抵抗を取り付けます。

外付けMOドライブのOUTコネクタに終端抵抗を取り付けます。

**7** 外付けMOドライブに電源ケーブルを接続します。

外付けMOドライブに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、外付けMOドライブのマニュアルをご覧ください。

8 パソコン本体と、接続されている機器、接続した外付けMOドライブの電源プラグをコンセントに差し込みます。

アドバイス
コネクタにIN/OUTの指定がないときは

外付けMOドライブによってはコネクタにIN/OUTの指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続しても構いません。

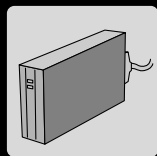
MOドライブを増設すると

MOドライブを増設すると、ドライブ名が変更されます。CD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。

増設したMOドライブ



ドライブ名はお使いの状況によって異なります。
上の画面は、MOドライブを1台増設した場合です。



7

ハードディスクを増設する

用語

IDE(アイディーイー)

ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格の1つです。

SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

本パソコンにはあらかじめIDE規格のハードディスクが1台内蔵されています。さらに、SCSIカードを取り付けることにより、SCSI規格の外付けハードディスクを増設できます。

ハードディスクを取り付けるには

パソコンを使い込んでいくうちに、アプリケーションをたくさんインストールしたり、容量の大きな画像データなどをたくさん保存したりして、あらかじめ取り付けられているハードディスクの空き容量が少なくなることがあります。

そのようなときには、ファイルやデータを整理して空き容量を増やすのも1つの方法ですが、さらに別売りのハードディスクを増設して、保存できる容量を増やすという方法もあります。

必要なものを用意する

ハードディスクを増設するには、次のものがが必要です。

SCSI規格の外付けハードディスク

ハードディスクには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。本パソコンでは、外付けハードディスクが取り付けられます。内蔵ハードディスクはお使いになれません。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

外付けハードディスクを使うために必要なものです。

終端抵抗(ターミネータ)は、内蔵されている場合もあります。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「MOドライブを増設する」の「必要なものを用意する」(P.73)をご覧ください。

外付けハードディスクを取り付ける

SCSI規格の外付けハードディスクを使うには、SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては、「拡張カードを取り付ける」(P.69)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあと、SCSIケーブルでSCSIカードと外付けハードディスクをつなぎます。外付けハードディスクには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。接続方法などについては、「MOドライブを増設する」(P.72)を参考にしてください。また、外付けハードディスクのマニュアルもあわせてご覧ください。取り付けた外付けハードディスクを使えるようにするためには、「領域を設定する」と「フォーマットする」作業が必要になります。

3

オプション機器を活用しよう！(ハードディスクを増設する)

領域を設定する



アドバイス

領域を分けると

それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、領域を2つに分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

初めてハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、お使いになりやすいほうを選んでください。

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。



重要

ドライブ名が変更されます

ハードディスクを増設して本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。CD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。

お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

保存されていたデータが失われます

領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

- 1 外付けハードディスクと、パソコン本体の電源を入れます。**
パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。
- 2 アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除します。**
タスクバーにアイコン表示されている「FM 便利ツール」などの常駐しているアプリケーションも終了させてください。
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。**
- 4 「C:¥WINDOWS>」に続けて `fdisk` と入力して、**[Enter]** を押します。**
「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか?」というメッセージが表示されず。
- 5 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。**
- 6 **[5]** を押して「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、**[Enter]** を押します。**
「ハードディスクドライブの番号を入力してください」というメッセージが表示されず。

💡 アドバイス

領域の設定を中断するには

- 1 **[Esc]**を押します。
- 2 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **[X]** (閉じるボタン) をクリックします。



💡 アドバイス

「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。

- ・外付けハードディスクが正しく接続されているか
- ・外付けハードディスクの電源が入っているか

それでも、「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の  をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int13 ユニット」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
 になっているときは、 をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。
- 7 もう一度手順 3 (P.78) から操作し直します。

- 7 **[2]** を押して増設したハードディスクを選び、**[Enter]** を押します。
ディスク 1 は、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスクです。
ディスク 2 が増設したハードディスクです。
- 8 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[1]** を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]** を押します。
「どれかを選んでください。」というメッセージが表示されます。
- 9 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]** を押します。
「ディスクの総容量は... 拡張 MS-DOS 領域を作ります。」というメッセージが表示されます。
- 10 **[Enter]** を押します。
増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。
- 11 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

3

オプション機器を活用しよう！（ハードディスクを増設する）



アドバイス

容量を入力するときに単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

12 ここでは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、操作手順が異なります。

▶ **領域を分けない場合**

☞ 何も入力せずに **[Enter]** を押して、手順 14 へ進みます。

▶ **領域を分ける場合**

☞ 1 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。
「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されます。

13 2 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。
この手順を繰り返すと、さらに領域を分けることができます。

表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押ししても構いません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。

領域をすべて分け終わると、「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されます。

14 **[Esc]** を押します。

15 **[Esc]** を押します。

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されます。

16 **[Esc]** を押します。

「C:¥WINDOWS>」と表示されます。

17 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]** を押してください。

18 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

19 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。

フォーマットする

領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。

また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要

フォーマットするとデータは失われます

ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようご注意ください。



アドバイス

アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除してください

ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション(「FM便利ツール」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)を終了させてください。


アドバイス



どのドライブが増設したハードディスクのものか調べてください

フォーマットされていないハードディスクのドライブ(≡)を反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブ(≡)を反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

「アクセスできません。」と表示されたときは

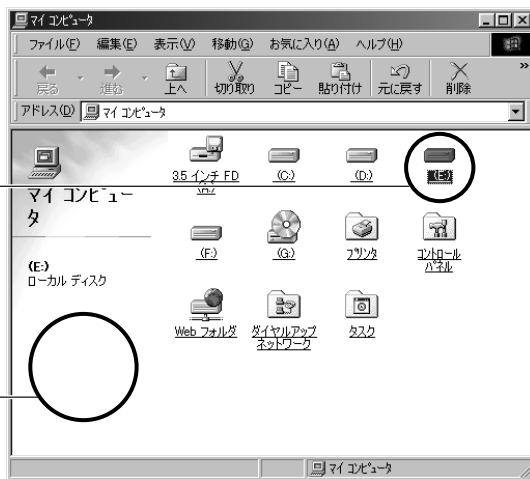
増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

1 デスクトップの (マイコンピュータ) をクリックします。

2 増設したハードディスクのドライブ(≡)にマウスポインタを合わせます。マウスポインタが から に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。ペンをお使いの方は、増設したハードディスクのドライブ(≡)の近くに軽くペンを押し付けて、そのままアイコンの上までドラッグすると、アイコンが反転表示されます。

増設したハードディスクのドライブ

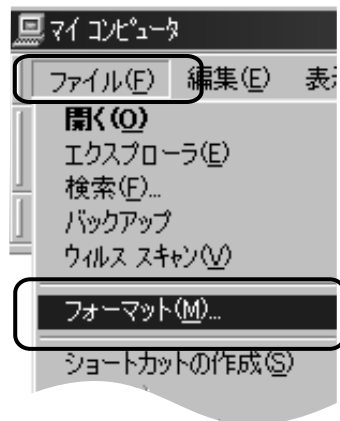
ここに何も表示されていないことを確認してください。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域(拡張 MS-DOS 領域)を2つに分けた場合です。

3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。

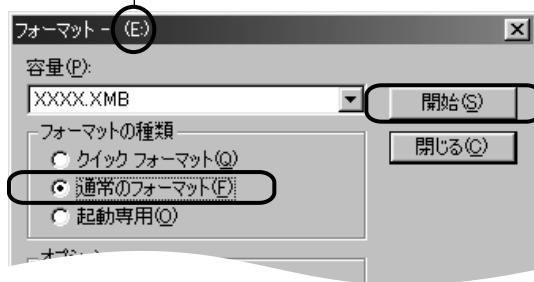


3

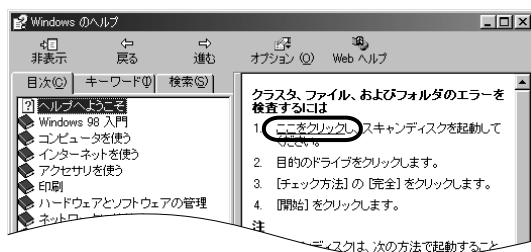
オプション機器を活用しよう！(ハードディスクを増設する)

- 4** 「フォーマットの種類」の「通常のフォーマット」の をクリックして にし、「開始」をクリックします。

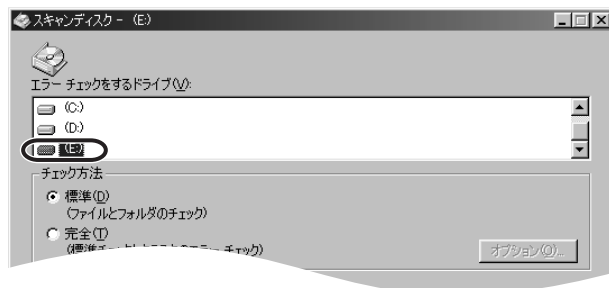
増設したハードディスクのドライブ名であることを確認してください。



- 5** 「OK」をクリックします。
フォーマットが始まります。
- 6** フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。
- 7** 「OK」をクリックします。
- 8** 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。
スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。
ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



- 9** 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



- 10** 「チェック方法」の「完全」の をクリックして にし、「開始」をクリックします。
スキャンディスクが始まります。しばらくするとスキャンディスクが終了し、「結果レポート」が表示されます。
- 11** 「結果レポート」ウィンドウの内容を確認し、「閉じる」をクリックします。
- 12** 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。



アドバイス

エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。



アドバイス

領域を2つ以上に分けたときは

手順2～14(←P.81)を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

- 13** 「Windowsのヘルプ」ウィンドウの右上の **X**(閉じるボタン)をクリックします。
- 14** 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 15** 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の **X**(閉じるボタン)をクリックします。

第 4 章

BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や、設定をご購入時の状態に戻す方法などについて説明しています。BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。設定が必要な場合のみ、お読みください。正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1. BIOS セットアップとは	86
2. BIOS セットアップの操作のしかた	87
3. ご購入時の設定に戻す	92
4. BIOS が表示するメッセージ一覧	96



1

BIOS セットアップとは

BIOS(バイオス)セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。

本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたときなどに設定を行ってください。

通常、本パソコンをお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。

誤って BIOS セットアップを起動してしまった場合は、「BIOS セットアップを終了する」(P.90)をご覧ください。



アドバイス

バッテリーの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモス ラム) と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されるときは、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご連絡ください。

パーソナルエコーセンターのご利用については、『富士通サポート ご案内』をご覧ください。



BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

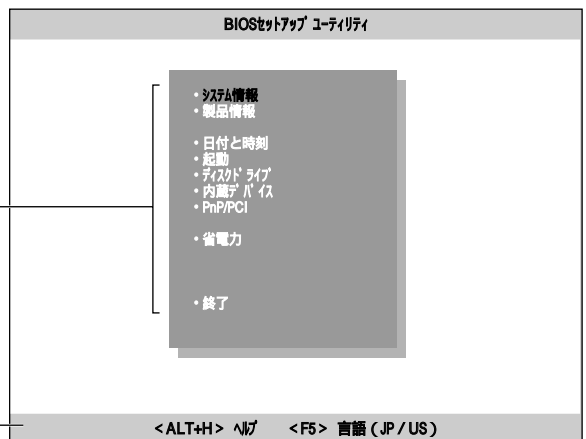
BIOS セットアップを起動する

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 4 画面下に「<F2> : BIOS セットアップ <F12> : 起動メニュー」と表示されている間に、**[F2]**を押します。
BIOS セットアップのメインメニュー画面が表示されます。

 **アドバイス**

BIOSセットアップを始められないときは Windows98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。Windows98 が完全に起動するのを待ってから、もう一度手順 2 ~ 4 の操作を行ってください。

BIOSセットアップ
の各メニューです。



キー一覧
設定時に使うキーの
一覧です。

設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1** を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



- 2** 設定を変更したいメニューが黄色で表示されていることを確認し、 を押します。

詳細設定項目を表示するときは、 を押してから を押します。

- 3** を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

▶の付いている項目はサブメニューがあることを表します。

▶の付いている項目にカーソルを合わせて を押すと、サブメニューが表示されます。



ヘルプフィールド
カーソルを合
わせた項目の説明
が表示されます。

(画面は一例です)

- 4** を押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、 を押してメインメニュー画面に戻り、手順 1 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、 を押すと 1 つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときは、「BIOS セットアップを終了する」(P.90)をご覧ください。

アドバイス 詳細設定項目について

本章の画面の中で、斜体表示されている項目は詳細設定項目です。通常は表示されません。

通常は、詳細設定項目の設定を変更する必要はありません。

アドバイス 数値を入力する項目もあります

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは BIOS 画面のヘルプをご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- ・ **[Esc]** : 前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニュー画面に戻ります。サブメニューやヘルプが表示されているときは、各メニューに戻ります。メインメニュー画面が表示されているときは、BIOSセットアップを終了するメッセージが表示されます。
- ・ **[Enter]** : ▶ が付いている項目のサブメニューを表示します。または、設定を選択します。
- ・ **[□]** **[□]** : 設定するメニューや項目、設定にカーソルを移動します。
- ・ **[□]** **[□]** : 設定を変更します。
- ・ **[F5]** : BIOS セットアップ画面の表示を英語に切り替えます。もう一度押すと日本語に戻ります。
- ・ **[F8]** : メインメニュー画面で押すと、詳細設定項目が表示されます。詳細設定項目の表示を消すには、メインメニュー画面で再度 **[F8]** を押しします。
- ・ **[Alt]+[H]** : このキーを押したときの画面上で使えるキーと、そのキーの役割について表示されます。
[Esc] を押すと表示は消えます。

変更内容を取り消す

前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

- 1 「終了」メニューを表示します。**
- 2 「変更前の値を読み込む」を選び、**[Enter]** を押します。**
「変更前の値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選び、**[Enter]** を押します。**
設定が前回保存したときの値に戻ります。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(P.92)をご覧ください。

BIOS セットアップを終了する

- 1 各メニューの設定を終了し、**[Esc]** を押してメインメニュー画面を表示します。
- 2 **[F10]** を押して、「終了」にカーソルを合わせます。



- 3 **[Enter]** を押します。



4 ▶ 設定を保存してBIOS セットアップを終了し、Windows 98 を起動する場合

☛ を押して、「変更を保存して終了する (再起動)」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

変更した内容を保存して再起動しますか？

[はい] [いいえ]

▶ 設定を保存してBIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源を切る場合

☛ を押して、「変更を保存して終了する (電源 OFF)」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

変更した内容を保存して電源OFFしますか？

[はい] [いいえ]

▶ 設定を保存しないでBIOS セットアップを終了し、Windows 98 を起動する場合

☛ を押して、「変更を保存せずに終了する (再起動)」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。

変更した内容を保存せずに再起動しますか？

[はい] [いいえ]

5 を押して、「はい」にカーソルを合わせ (水色で表示されている状態) **[Enter]** を押します。

BIOS セットアップが終了します。

3

ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は次のとおりです。

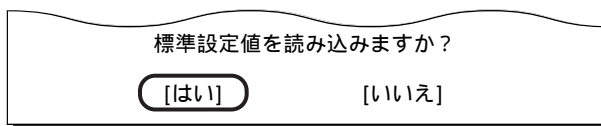
- 1 メインメニュー画面が表示されていないときは、**[Esc]** を押してメインメニュー画面を表示します。
BIOS セットアップを起動していない場合は、「BIOS セットアップを起動する」(P.87)をご覧ください。
- 2 を押して、「終了」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- 3 を押して「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- 4 を押して「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）、 を押します。

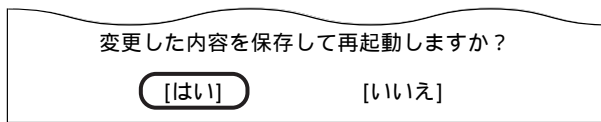


設定がご購入時の状態に戻ります。

- 5 を押して「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、 を押します。



- 6 を押して「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）、 を押します。



BIOS セットアップが終了し、Windows98 が起動します。

標準設定値一覧

ご購入時に設定されている値は、次の表のとおりです。
 「ご購入時の設定に戻す」(P.92)の操作を行うと、表のような値に設定されます。
 表の備考欄に が付いている項目は、詳細設定項目(P.88)です。

日付と時刻メニュー

項目	標準設定値	備考
システム日付	-	現在の日付が表示
システム時刻	-	現在の時刻が表示

起動メニュー

項目	標準設定値	備考
起動デバイスの優先順位	-	
1. [フロッピーディスク A:]		
2. [ハードディスク C:]		
3. [IDE CD-ROM]		
プライマリディスプレイ	AGP	
全体表示	使用しない	
高速起動	自動	
起動時の自己診断画面	表示しない	
起動時のNumLock設定	使用する	
メモリ診断	使用しない	
BIOS書き換えモード	使用しない	
言語 (Language)	日本語 (JP)	

ディスクドライブメニュー

項目	標準設定値	備考
フロッピーディスクコントローラ	使用する	
フロッピーディスク A	1.44MB 3.5インチ	
書き込み禁止機能	使用しない	
IDEコントローラ	両方使用する	
IDEプライマリマスター	-	
デバイスの検出	自動	
タイプ	ハードディスク	
シリンダ数	-	
ヘッド数	-	
セクタ数	-	
最大容量	-	
LBAモード制御	自動	
マルチセクタ転送	自動	
32ビットアクセス	使用する	
PIO転送モード	自動	
DMA転送モード	自動	
IDEプライマリスレーブ	-	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照
IDEセカンダリマスター	-	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照 / タイプはIDE CD-ROMと表示される
IDEセカンダリスレーブ	-	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照
書き込み禁止機能	使用しない	

内蔵デバイスメニュー

項目	標準設定値	備考
シリアルポート	使用する	
I/Oアドレス	3F8h	
割り込み要求 (IRQ)	4	
PS/2マウス	使用する	
USBキーボード/マウス	使用する	

PnP/PCIメニュー

項目	標準設定値	備考
プラグアンドプレイOS	はい	
PCI IRQの共有	はい	
PCI IRQ設定	自動	
INTA#	-	PCIスロット1のIRQを表示
INTB#	-	PCIスロット2のIRQを表示
INTC#	-	サウンドコントローラのIRQを表示
INTD#	-	USBのIRQを表示
VGA共有メモリサイズ	4	
AGPアパーチャサイズ	64	
リソース (ESCD) の初期化	いいえ	

省電力メニュー

項目	標準設定値	備考
省電力モード	使用する	
電源スイッチ	スタンバイ	
ハードディスク省電力	使用しない	
スタンバイ移行時間	使用しない	
自動ウェイクアップ	-	
モデム着信によるウェイクアップ	使用しない	
PCI PMEによるウェイクアップ	使用しない	
時刻によるウェイクアップ	使用しない	
ウェイクアップ日付	-	
ウェイクアップ時刻	-	

4

BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージ (BIOS メッセージ) について説明します。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- ・ BIOS セットアップの設定を変更する
指示に従って BIOS セットアップを起動して、設定をご購入時の状態 (標準設定値) に戻してください。詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」(☞P.92) をご覧ください。
- ・ オプション機器の取り付けを確認する
オプション機器の拡張カードやメモリなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているかを確認してください。また、IRQ (割り込み要求) (☞P.103) が正しく設定されているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

次のメッセージが表示されると、本パソコンが停止します。指示に従って対処してください。

1. メモリーエラーです。XXXX:YYYY:ZZZzh(R:xxxxh,W:yyyyh)
Memory Error at XXXX:YYYY:ZZZzh(R:xxxxh,W:yyyyh)
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
2. キーボードエラーです。または、キーボードが接続されていません。
Keyboard Error or Not Connected
本パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
3. 装置の設定エラーです。
Equipment Configuration Error
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
4. フロッピーディスクコントローラのエラーです。
Floppy Disk Controller Error
弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。



アドバイス

電源を切るときは

電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。その後、必ず本パソコンの電源ランプが消えていることを確認してください。

5. フロッピーディスク A のエラーです。
Floppy Drive A Error
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
6. IDE プライマリマスターのエラーです。
IDE Primary Channel Master Drive Error
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
7. IDE セカンダリマスターのエラーです。
IDE Secondary Channel Master Drive Error
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
8. CPU BIOS 更新コードが不一致です。
CPU BIOS Update Code Mismatch
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
9. CPU クロックが不一致です。
CPU Clock Mismatch
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(☞P.92) の操作を行ってください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
10. リアルタイムクロックのエラーです。
Real Time Clock Error
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(☞P.92) の操作を行ってください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
11. CMOS バッテリーが損傷しています。
システム CMOS のチェックサムが正しくありません。
CMOS Battery Bad
CMOS Checksum Error
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(☞P.92) の操作を行ってください。
それでも本メッセージが表示される場合は、バッテリーの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
12. I/O アドレスが競合しています。
I/O Resource Conflict(s)
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

13. メモリのリソースが競合しています。
Memory Resource Conflict(s)
[F2]を押してBIOSセットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
14. IRQ設定のエラーです。
IRQ Setting Error
[F2]を押してBIOSセットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
15. 拡張ROMの割り当てに失敗しました。
Expansion ROM Allocation Failed
本パソコンの電源を切り、増設した拡張カードが正しく取り付けられているか確認し、もう一度本パソコンの電源を入れてください。それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
16. シリアルポート1のリソースが競合しています。
Onboard Serial Port 1 Conflict(s)
増設した拡張カードと本パソコンのシリアルポート1のリソースが競合しています。増設した拡張カードのリソースを変更するか、[F2]を押してBIOSセットアップを起動し、「内蔵デバイス」メニューで「シリアルポート」のリソースを変更してください。
17. パラレルポートのリソースが競合しています。
Onboard Parallel Port Conflict(s)
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
18. システムディスクをセットし、<Enter>キーを押してください。
Insert system diskette and press Enter key to reboot
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
19. PS/2キーボードのエラーです。
PS/2 Keyboard Interface Error
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
20. PS/2マウスのエラーです。
PS/2 Pointing Device Error
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
21. PS/2マウスのエラーです。
PS/2 Pointing Device Interface Error
弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
22. Invalid system disk
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れる则表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。

第 5 章

技術情報

本パソコンの仕様や、ドライバのインストール、注意事項などについて説明しています。

1. 仕様一覧	100
2. ドライバのインストール	107
3. その他の注意事項	117



1

仕様一覧

パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER Pliché model 243	
CPU	Celeron™ プロセッサ - 433 MHz	
キャッシュメモリ	L1 32KB + L2 128KB	
BIOS ROM	256KB (フラッシュROM)	
システムRAM	標準 64MB (SDRAM) パリティなし 最大 192MB	
システムバスクロック	66MHz	
フロッピーディスク	3.5 インチ × 1 (3 モード対応)	
ハードディスク	10.2GB (Cドライブ 9.2GB、Dドライブ 1.0GB)	
CD-ROM	最大 24 倍速	
グラフィック	ATI 社製 RAGE Mobility-P (SDRAM : 4MB)	
ディスプレイ	12.1 インチ TFT	
オーディオ機能	Crystal 社製 CS4281 + CS4297A (AC97)	
デジタル出力	光デジタルオーディオ出力 (EIAJ 丸形光ミニジャック) 1	
I/F	ベン入力	PS/2 接続 × 1
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin
	USB ポート	USB コネクタ 4pin × 4 (前面 × 2、側面 × 2)
	サウンド	マイク入力 × 1、LINE 入力 × 1、LINE 出力 × 1、 ヘッドホン端子 / 光デジタルオーディオ出力端子 × 1
	FAX/ ボイス モデム	モジュージャック × 2 (LINE × 1、PHONE × 1) DATA 56Kbps (受信) 33.6Kbps (送信) / FAX 14.4Kbps
拡張スロット数	PCI × 2 (PCI2.1 準拠、ハーフ 2、 うち 1 つに FAX/ ボイスモデムカードを標準搭載)	
PC カードスロット数	JEIDA/PCMCIA 準拠 TYPE / × 1	
電源 / 周波数	AC100V 50/60Hz	
消費電力	最大 87.5W	
重量	約 9Kg	
外形寸法	W316mm × D225mm × H358mm	
使用環境	温度 10 ~ 35 湿度 20 ~ 80% (RH)	
省エネ法に基づく エネルギー消費効率	約 20W	
対応 OS	Windows98 SECOND EDITION	

- 1 光デジタルオーディオ出力端子はヘッドホン端子と共用です。本パソコンのデジタル出力は、サンプリング周波数 48kHz のみ有効です。48kHz に対応したオーディオ機器をお使いください。また、一般の CD プレーヤー類と同等のデジタルオーディオのコピーマネージメントを行っております。
- 2 176.41mm まで使用可能

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

液晶ディスプレイ

製品名称	FMV-DESKPOWER Pliché model 243
表示方式	TFT
サイズ	12.1 インチ
最大解像度	800 × 600 ドット
最大発色数	26 万色

タッチパネル

方式	アナログ抵抗膜方式タッチパネル (PS/2 接続)
IRQ	12
ペンと画面の位置精度	± 2mm (垂直・水平とも)

サウンド機能

チップセット	Crystal社製 CS4281 + CS4297A (AC97)
録音再生機能	サンプリング周波数 5kHz ~ 48kHz 16bit Stereo 最大 96 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	Microsoft GS Wavetable SW Synth
その他	サウンドアクセラレーション機能

スピーカー

方式	バスレフ型ボックススピーカー
スピーカーユニット	口径 : 40 × 30 (mm) インピーダンス : 8
定格 (最大) 入力	1W
音圧レベル	80dB/W (m)
再生周波数	220Hz ~ 15kHz

FAX / ボイスモデムカード

品名	FAX / ボイスモデムカード -56000 (全二重)
型名	FMV-FX53Z6
通信方式	2線式 全二重 (FAXモードでは2線式 半二重)
通信規格	K56flex™, ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32 /V.22bis/V.22/V.21/Bell212A, 103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter (FAXモード)
通信速度	データモード : 56000, 54667, 54000, 53333, 52000, 50667, 50000, 49333, 48000, 46667, 46000, 45333, 44000, 42667, 42000, 41333, 40000, 38667, 38000, 37333, 36000, 34667, 34000, 33333, 32000, 30667, 29333, 28000 33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200bps FAXモード : 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps ■■■■■ は、受信側のみ
同期方式	調歩同期
データ転送 プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis
FAXインターフェース	TIA/EIA578 (class 1)
バスインターフェース	PCI
音声蓄積機能	ADPCM
寸法	長さ 165 mm × 幅 120 mm × 高さ 22 mm
使用環境条件	温度 : 10 ~ 35 (結露がないこと) 湿度 : 20% ~ 80%
直流抵抗値	256
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動速度検出 ・ 発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出 ・ 記憶した電話番号による自動ダイヤルおよび再ダイヤル ・ トーン式 / パルス式ダイヤルの選択

- ・ 本モデムは Windows98 以外の OS での動作はサポートしていません。
- ・ K56flex は Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. が提唱している通信規格です。
- ・ V.90 および K56flex で接続する場合は、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・ 56000bps は V.90 および K56flex の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90 による 33600bps (K56flex は 31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、V.90 送信時は 33600bps (K56flex は 31200bps) が最高速度になります。
日本国内の一般公衆回線、または構内交換機経由で通信を行う場合は、同規格での通信ができないことがあります。
- ・ MS-DOS モードおよび Windows98 の MS-DOS プロンプトではお使いになれません。
- ・ 300bps での通信は行えません。

IRQ (割り込み要求) 一覧

アドバイス

IRQの値は変更されることもあります

ここに記載しているIRQの値は、ご購入時のものです。拡張カードなどのオプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在のIRQを確認するには

拡張カードなどのオプション機器を増設すると、IRQの値が変更されることがあります。現在のIRQは、次の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 罫線(システム)をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、「割り込み要求 (IRQ)」をクリックします。IRQの値の一覧が表示されます。

ご購入時の本パソコンのIRQ (割り込み要求) は、次のように設定されています。

IRQ (割り込み要求)	使っているハードウェア
00	システムタイマ
01	キーボード
02	割り込みコントローラ
03	空き
04	通信ポート (COM1)
05	サウンド
06	フロッピーディスクドライブ
07	空き
08	リアルタイムクロック
09	ACPI
10	PCカード / USB
11	内蔵FAX / ボイスモデム (COM2)
12	タッチパネル
13	数値データプロセッサ
14	ハードディスク
15	CD-ROM



IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request) とは

コラム

周辺装置が要求する処理はすべてCPUが行いますが、CPUはどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求がくるかを予想できません。CPUが常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPUに実行してほしいことが発生したときに、IRQの番号を使って現在CPUが行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。

CPUは、どの装置から要求が来たのかをIRQから判断して、処理を行います。それが終われば、CPUはふたたび元の処理に戻ります。

IRQ を解放する



アドバイス

PCI拡張カードのIRQを解放するには

お客様が取り付けした拡張カードが使っているIRQを解放したいときは、拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入れると、IRQが自動的に解放されます。



用語

デバイス

パソコン本体内部の装置（メモリ、拡張カードなど）や、パソコンに接続する機器（マウス、キーボードなど）のことをデバイスと呼びます。



アドバイス

IRQを解放すると

それまでそのIRQを割り当てられていたデバイスは使えなくなります。IRQ4を解放すると、パソコン本体前面のシリアルコネクタ（COM1）（☛P.3）が使えなくなります。このコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

オプション機器をお使いになる場合には、オプション機器を取り付ける前に次の設定が必要になることがあります。

取り付けるオプション機器が必要とするIRQが本パソコンですでに使われているときは、そのままではそのオプション機器を使えません。オプション機器を取り付ける前に、オプション機器が必要とするIRQを本パソコンで空ける必要があります。この作業を「IRQの解放」といいます。

本パソコンのIRQの使用状況について詳しくは、「IRQ（割り込み要求）一覧」（☛P.103）をご覧ください。

ここでは、シリアルポートのIRQを解放する手順を例に、IRQを解放する方法を説明します。



重要


IRQを解放したデバイスは使えません

IRQを解放すると、それまでそのIRQを割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

再びお使いになるときは、IRQを再設定してください。

IRQは不用意に解放しないでください

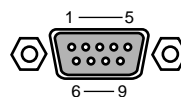
IRQは、不用意に解放すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「IRQ（割り込み要求）一覧」（☛P.103）でよくご確認のうえ、IRQを解放してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 （システム）をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。
- 4 解放したいIRQを使っているデバイスをクリックして選びます。
IRQ4を解放するには「ポート（COM/LPT）」内の「通信ポート（COM1）」を選びます。
- 5 「プロパティ」をクリックします。
デバイスのプロパティの「情報」が表示されます。
- 6 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」の をクリックして にし、「OK」をクリックします。
「デバイスマネージャ」タブに戻ります。
IRQを解放したデバイスに×印が付きます。
- 7 「閉じる」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。
- 8 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 9 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

コネクタのピン配列と信号名

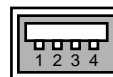
各コネクタのピンの配列および信号名は次のとおりです。

シリアルコネクタ



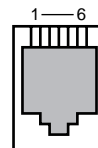
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

USB ポート



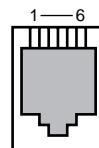
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

LINE 端子 (モデム)



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

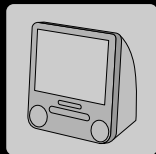
PHONE 端子 (モデム)



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

本体のコネクタ / ジャックで利用できるケーブル

シリアルコネクタ	D-SUB9 ピンコネクタ付きケーブル
USB ポート	USB ケーブル
LINE/PHONE 端子	モジュラーケーブル
LINE OUT/LINE IN 端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル
マイク端子	ミニプラグ (モノラル) ケーブル
ヘッドホン端子/光デジタルオーディオ出力端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル 丸形 (光ミニプラグ) ケーブル



2

ドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。

音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

ペン入力の調子が悪い場合はタッチパネルドライバをインストールします。

インストールのときに気をつけること

正常にインストールを行うために、次の点にご注意ください。

マウスをお使いください

正常にインストールを行うために、マウスで操作してください。

ペンを使ったタッチ操作はインストール終了後にお使いください。

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98 の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。


アプリケーションの終了やスクリーンセーバーの解除

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「らんらんチャチャチャ」や「FM 便利ツール」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除してください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。

その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず「アプリケーション CD 2」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法


デスクトップの何も無いところで右クリックし、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できません。


- ▶ ディスプレイドライバをインストールする場合
 ◀ 次の「ディスプレイドライバをインストールする」をご覧ください。
- ▶ サウンドドライバをインストールする場合
 ◀ 「サウンドドライバをインストールする」(P.111)をご覧ください。
- ▶ タッチパネルドライバをインストールする場合
 ◀ 「タッチパネルドライバをインストールする」(P.115)をご覧ください。

ディスプレイドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(◀P.107)をご覧ください。

ディスプレイドライバのインストールは⑩「アプリケーション CD 2」から行います。




- 1** それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
 必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3**  (画面) をクリックします。
 「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「設定」タブをクリックします。
- 5** 「詳細」をクリックします。
 「RAGE MOBILITY AGP (Japanese) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
 「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
 「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 8** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の をクリックし、 にします。
- 9** 「次へ」をクリックします。
- 10** 「ディスク使用」をクリックします。
 「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
 e:¥ati
 ↑ e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 12** 「RAGE MOBILITY AGP (Japanese) [6-24-1999]」が選択されていることを確認し、「OK」をクリックします。
 「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されたときは、「はい」をクリックします。

- 13** 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。
しばらくすると、「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 14** 「完了」をクリックします。
「RAGE MOBILITY AGP (Japanese) のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 15** 「モニタ」タブをクリックします。
- 16** 「ラップトップディスプレイパネル(800 × 600)」と表示されていることを確認します。
▶ 表示されている場合 ⇐ 手順 25 へ進みます。
▶ 表示されていない場合 ⇐ 手順 17 へ進みます。
- 17** 「変更」をクリックします。
「ディスプレイドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 18** 「次へ」をクリックします。
- 19** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 20** 「すべてのハードウェアを表示」の をクリックし、 にします。
- 21** 「製造元」の「(標準モニタの種類)」をクリックします。
- 22** 「モデル」の「ラップトップディスプレイ (800 × 600)」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されたときは、「はい」をクリックしてください。
- 23** 「次へ」をクリックします。
- 24** 「完了」をクリックします。
- 25** 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 26** 「閉じる」または「OK」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 27** 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
再起動しない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックして、本パソコンを再起動してください。
- 28**  「アプリケーション CD 2」を CD-ROM ドライブから取り出します。

アドバイス

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたら


- 1 「OK」をクリックします。
「この設定を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
- 2 「はい」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 3 手順 26 へ進みます。

- 29** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 30** 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
「RAGE MOBILITY AGP (Japanese) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 31** 「画面」タブをクリックし、「パネル」をクリックします。
- 32** 「パネル属性」の「イメージをパネルサイズに (S)」の  をクリックし、 にします。
- 33** 「OK」をクリックします。
「RAGE MOBILITY AGP (Japanese) のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 34** 「OK」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 35** 「OK」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが閉じます。



アドバイス

画面の設定を変更するには

解像度や発色数などの画面の設定を変更するには、「画面の解像度や発色数を変える」( P.32) をご覧ください。

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

サウンドドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(P.107)をご覧ください。

サウンドドライバのインストールは、②「アプリケーション CD 2」から行います。

- 1** それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** ②「アプリケーション CD 2」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 3** ②「アプリケーション CD 2」内にある次のフォルダを、本パソコンの「マイドキュメント」へコピーします。
`¥update¥sound¥crystal`
コピーのしかたについては、『かるがるパソコン入門』をご覧ください。
- 4** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 5** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`c:¥my documents¥crystal¥5011¥setup.exe`
「my」と「documents」の間は、 を 1 回押してください。
「Crystal Audio Setup」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「Uninstall Crystal Drivers」をクリックします。
「Crystal driver uninstall complete」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「Restart」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索しています: PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。
- 8** 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 9** 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」が④になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 10** 「検索場所の指定」の をクリックして にし、次のフォルダ名を入力します。
`c:¥my documents¥crystal¥5011`
「my」と「documents」の間は、 を 1 回押してください。
- 11** 「フロッピーディスクドライブ」と「CD-ROM ドライブ」が になっていることを確認します。
 になっている場合は、 をクリックし にしてください。
- 12** 「次へ」をクリックします。
「このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。」というメッセージが表示されます。

13 「更新されたドライバ(推奨)Crystal SoundFusion(tm) CS4281 WDM Audio」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。: Crystal SoundFusion(tm) CS4281 WDM Audio」というメッセージが表示されます。

14 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされ、「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。

15 「完了」をクリックします。



アドバイス

Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

「再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。

Crystal SoundFusion(tm)ディスクを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

`c:\my_documents\crystal\5011`

「my」と「documents」の間は、を1回押してください。


「ファイルが見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、次のいずれかのフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

`c:\windows\options\cabs` または `c:\windows\system`

次に、正しくサウンドドライバがインストールされたかを確認します。

16 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

17  (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

18 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

アドバイス

「！」や「×」が表示されていたり、画面例のように表示されていないときは

「！」や「×」が表示されていたり、画面例のように表示されていない場合は、手順4 (P.109) から操作し直してください。

それでも「！」や「×」が表示されている場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたは、FM インフォメーションサービスにご連絡ください。

- 19** 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の **+** をクリックします。
「Crystal SoundFusion (tm) CS4281 WDM Audio」が表示されていることを確認します。



(お使いの状況により、画面が異なる場合があります)

- 20** 「OK」をクリックします。

次に、MIDI の設定を確認します。

- 21** 「コントロールパネル」ウィンドウの **MM** (マルチメディア) をクリックします。
「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

- 22** 「再生」、「録音」の「優先するデバイス」が「Crystal SoundFusion(tm)」になっていることを確認します。

他のデバイスになっている場合は、「優先するデバイス」の右側の **▼** をクリックし、「Crystal SoundFusion (tm)」をクリックします。



- 23** 「MIDI」タブをクリックします。

24 「単一の機器」が「Microsoft GS Wavetable SW Synth」になっていることを確認します。

他の機器になっている場合は、一覧から「Microsoft GS Wavetable SW Synth」をクリックします。



25 「OK」をクリックします。

「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

26 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。

27  「アプリケーション CD 2」を CD-ROM ドライブから取り出します。

 **アドバイス**

サウンドドライバのインストール終了後は

手順3(☞P.111)で、本パソコンの「マイドキュメント」へコピーしたフォルダは削除しても構いません。

アクティブデスクトップに設定してください


ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。アクティブデスクトップに切り替わります。

タッチパネルドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(P.107)をご覧ください。

タッチパネルドライバのインストールは、⑤「アプリケーション CD 2」から行います。必ずマウスで操作してください。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (システム) をクリックします。
- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 5 「マウス」内の「Fujitsu Touch Panel PS/2」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「ドライバ」タブをクリックします。
- 7 「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 8 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 9 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 10 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 11 ⑤「アプリケーション CD 2」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 12 「配布先ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:¥tpanel
↑ e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 13 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されません。
- 14 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 15 「完了」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 16 「いいえ」をクリックします。

アドバイス


「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されたら

「はい」をクリックしてください。

アドバイス

「ディレクトリは既に存在します。」というメッセージが表示されたら

「OK」をクリックしてください。

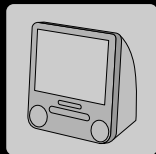
- 17** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 18** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 19** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 20** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
`e:¥tpanel¥inst`
↑ e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
フォルダの作成とファイルのコピーが行われます。
- 21** 「完了」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。
- 22**  「アプリケーション CD 2」を CD-ROM ドライブから取り出します。
- 23** タッチパネルの調整を行います。
「タッチパネルの補正」(←P.31) をご覧になり、タッチパネルの補正を行ってください。

アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。



3

その他の注意事項

液晶ディスプレイの特性

TFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に144万個以上(解像度800×600の場合)の画素(ドット)より作られています。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

液晶ディスプレイの廃棄

タッチパネル内の蛍光管の中には水銀が含まれています。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

モデムについて

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



感電 近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、場合によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



感電 モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れしないでください。感電の原因となることがあります。

- ・ モデムが使用可能な回線
本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないいと正常に動作しません。
- ・ ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません
本モデムが接続できる回線は、一般のNTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。
- ・ デジタル回線に接続する場合
本モデムはデジタル網(ISDN等)やデジタル構内交換網(デジタルPBX)の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障するおそれがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してお使いください。

- ・ PBX に接続する場合

PBX に接続される通信回線の仕様が NTT の電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムがお使いになれないことがあります。たとえば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについては NTT 回線の仕様に準拠しています。接続する前に、PBX の製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。

ただし、「0」発信によって外線に接続する PBX 内線電話の場合、お使いのアプリケーションの設定で初期化コマンドに ATX3 を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できることがあります。
- ・ キャッチホン 1 契約をしている場合

パソコン通信や FAX 送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その場合は、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン 2 に変更するか、または同一の回線ではお使いにならないでください。
- ・ FAX 受信時の注意

自分側からダイヤルした場合、またはハンドセットで通話している間は、相手側からの FAX を受信できません。
- ・ 通信アプリケーションをお使いになるときの注意

通信アプリケーションでデータのアップロード/ダウンロードを行う場合は、パソコンがスタンバイ状態にならないように設定してください。アップロード/ダウンロードの途中でスタンバイ状態になると、データ転送が中断することがあります。
- ・ AC アダプタなどは離してお使いください


AC アダプタなどは、ノイズを発生して電話回線に影響を及ぼす場合があります。モデムをお使いになる場合は、これらのノイズ源と回線に影響のない程度に離してお使いください。
- ・ 他のモデムを接続しないでください

他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「TEL」端子に接続されている場合は取り外してください。
- ・ 分岐アダプタを使用して、インターネットやパソコン通信をしているときの注意

通信中は電話機の手話器を外さないようにしてください。手話器を外れると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。


分岐アダプタをお使いになる場合は、なるべく 2 分岐以内にしてください。
- ・ モジュラーケーブルの長さが足りないとき

添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。
- ・ AT コマンドについて

本モデムの AT コマンドについては、「アプリケーション CD 2」にある PDF マニュアルをご覧ください。

`e:¥FX53Z6¥README.pdf`

↑ e には、お使いの CD-ROM ドライブ名と読み替えてください。

PDF マニュアルの使いかたについては、『使いこなす本ソフト編』の「付録 3 PDF マニュアルの使いかた」をご覧ください。
- ・ リダイヤル抑制機能について

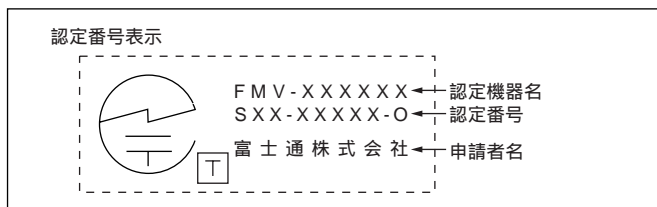
電気通信事業法に準じて、本モデムのリダイヤル（最初のリダイヤリングは含まれません）は、3 分間に最大 2 回までしかできません。3 回以上リダイヤルをすると、リダイヤル抑制がかかります。

リダイヤル抑制中は、次のように応答を返します。

DELAYED（残り時間）

認定番号の表示

本モデムの技術基準適合認定番号は、モジュージャック差し込み口の横に表記されています。



かんたんメールボタンについて

かんたんメールボタン (P.2) を押すと次の状態になります。

- ・ 本パソコンの電源が入ることがあります。
- ・ スタンバイから復帰します。

スタンバイ時の注意

- ・ 電源スイッチなどで本パソコンをスタンバイにしても、まれに、すぐに復帰する場合があります。その場合には、一度マウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。
- ・ WAVE/MIDI/AVI/MPEG/DATなどのマルチメディア関連のファイルおよびCDを再生する場合、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウ (P.15) で「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

画面表示について

次の場合に画面がちらついたり、ノイズが表示されたりすることがあります。

- ・ 解像度が切り替わる瞬間(起動中や、MS-DOSプロンプトの全画面モードへの切り替わり時など)
- ・ 再起動したとき
- ・ 電源を入れたとき、切ったとき
- ・ スタンバイになるとき、スタンバイから復帰するとき
- ・ 「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしたとき
- ・ 「画面のプロパティ」ウィンドウで「設定」タブ、「詳細」、「画面」タブの順にクリックし、「パネル」をクリック、「パネルの属性」内の「イメージをパネルサイズに」をクリックしたとき

電源の切断について

システムが停止した状態で電源を切る場合、電源スイッチを4秒以上押し続けて指を離れたときに、電源が再投入されることがあります。その場合は、再起動時に画面の左下に「<F2>: BIOS セットアップ <F12>: 起動メニュー」と表示されていることを確認し、もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

APM について

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能と APM (Advanced Power Management) 機能のどちらかを選んでお使いになれます。ACPI 機能に対応していないオプション機器をお使いになるときに、APM 機能に変更します。ご購入時の設定は ACPI 機能です。

重要

ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows98のAPM機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク(Cドライブ)内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。


また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

電源を切るときは

アドバイス「その他の電源の切りかた」(P.13)をご覧ください。電源を切ってください。APM 機能では電源スイッチを押すと、スタンバイ状態になります。

ACPI 機能に戻すときには





再度ハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります。

ACPI 機能へ設定に戻すには、『トラブル解決 Q&A』をご覧ください。ご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

Windows98 の APM 機能を設定する

必要なものを用意する

APM の設定には、次のものがが必要です。

- 『トラブル解決 Q&A』
- 『取扱説明書』
- 「リカバリ CD-ROM」(1/2)(2/2)
- 「アプリケーション CD 2」

APM 切り替えプログラムを使う

いったん APM 機能に切り替えると、ACPI 機能に戻すには、増設したオプション機器(拡張カードやプリンタ、スキャナなど)を取り外し、作成したデータを保存して、もう一度ハードディスク(Cドライブ)をご購入時の状態に戻す必要があります。上記の重要内をご確認のうえ、内容にご同意いただける場合は、次の操作を行ってください。

1 『トラブル解決 Q&A』、『取扱説明書』をご覧ください。本パソコンをご購入時の状態に戻します。

ご購入後に増設されたオプション機器(拡張カード類やプリンタ、スキャナなど)はすべて取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。

また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。

2 パソコン本体の電源を入れます。



重要

アクティブデスクトップを解除してください

APM機能を設定する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows 98 の標準画面に切り替わります。

APM機能を設定した後に、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

アプリケーションを終了し、スクリーンセーバーを解除してください

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「らんらんチャチャチャ」や「FM便利ツール」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除してください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

3 「アプリケーション CD 2」を CD-ROM ドライブにセットします。

4 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

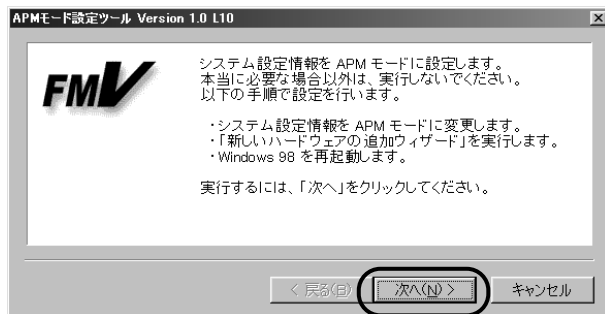
5 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥chgapm¥chgapm.exe

↑ e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。

「APM モード設定ツール」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。

6 「次へ」をクリックします。



7 「APM モードに設定する」の をクリックし、 にします。

8 「次へ」をクリックします。

9 「完了」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

10 「次へ」をクリックします。

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

11 「次へ」をクリックします。

「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。



アドバイス

メッセージが表示されたら


- ・「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
- ・「Windows 98 の CD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合は、`c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。
- ・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。



アドバイス

再起動は時間がかかる場合もあります


再起動するまで、マウスなどには触れないでください。


- 12** 「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 13** 「次へ」をクリックします。
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。
「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」というメッセージが表示されます。
- 14** 「完了」をクリックします。
「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- 15** フロッピーディスクがセットされていないことを確認し、「はい」をクリックします。
Windows 98 が再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。
検出が完了すると、「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- 16** 「はい」をクリックします。
Windows 98 が再起動します。
- 17** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 18**  (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 19** 「次へ」をクリックします。
「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。
- 20** 「次へ」をクリックします。
「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。
- 21** 「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。
- 22** 「次へ」をクリックします。
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。
検出が完了すると「詳細」ボタンが表示されます。
- 23** 「詳細」をクリックし、「アドバンスド パワーマネジメント サポート」が表示されることを確認します。
- 24** 「完了」をクリックします。
- 25** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 26** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

27 APM機能に設定されたことを確認するため、「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。

「Windowsの終了」ウィンドウで「スタンバイ」が表示されることを確認し、「キャンセル」をクリックします。

3 モードフロッピードライブを再インストールする

1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の  をクリックします。

3 「Fujitsu3-modeFloppy (FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。

「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

4 「OK」をクリックします。

5 「閉じる」をクリックします。

6 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

7 「次へ」をクリックします。

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

8 「次へ」をクリックします。

「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されます。

9 「いいえ」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。

10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。

11 「ディスク使用」をクリックします。

12 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥3mode

↑ eには、お使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。

13 「次へ」をクリックします。

14 「完了」をクリックします。

ファイルのコピーが始まり、しばらくすると「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

15 「はい」をクリックします。


本パソコンが再起動します。

アドバイス





再起動は時間がかかる場合もあります

再起動するまで、マウスなどには触れないでください。

APM システム情報設定ツールを使う

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 2** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:\fixapm\fixapm.exe
↑ e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「APM システム情報設定ツール」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「OK」をクリックします。
「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- 4** 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 5** CD-ROM ドライブから  「アプリケーション CD 2」を取り出します。

電源の管理の設定をする

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2**  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「詳細」タブをクリックします。
- 4** 「コンピュータのスリープボタンを押したとき」の右側の  をクリックし、「シャットダウン」をクリックします。
- 5** 「OK」をクリックします。
- 6** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 7** 「再起動」をクリックし、「はい」をクリックします。
- 8**  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9** 「詳細」タブをクリックします。
- 10** 「コンピュータのスリープボタンを押したとき」の右側の  をクリックし、「スタンバイ」をクリックします。
- 11** 「OK」をクリックします。

これで APM 機能の設定は終了です。このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

索引

記号

2DD	17
2HD	17
3 モードドライブ	17

A

AC アダプタのお手入れ	35
Alt キー	6
APM	120
Application キー	6
Application ボタン	8, 26
- の設定を変更する	26
Application ボタン 1 / E-mail ボタン	8
Application ボタン 2 / Internet ボタン	8
Application ボタン 3	8, 26

B

Back space キー	7
BIOS セットアップ	86
- の設定時に使う各キーの役割	89
- の設定を変更する	88
- の変更内容を取り消す	89
- 標準設定値一覧	94
- メッセージ一覧	96
- を起動する	87
- をご購入時の設定に戻す	92
- を終了する	90
BUSY ランプ	3

C

Caps Lock 英数キー	6
CD	19
CD-ROM	19
- が取り出せないとき	21
- をセットする	20
- を取り出す	21
CD-ROM ドライブ	2
CD 操作ボタン	8
CMOS RAM	86
CPU	60
Ctrl キー	6

D

DC-IN コネクタ	5
Delete キー	7
DIMM	61

E

E-mail ボタン	8, 26
ECC	61
EJECT ボタン	2
End キー	7
Enter キー	7
Esc キー	6

F

FAX/ ボイスモデムカード	67, 102
- 仕様	102
F キー	6

H

Home キー	7
---------------	---

I

IDE	77
IEEE1394 カード	67
Insert キー	7
Internet ボタン	8, 26
IRQ	103
- 一覧	103
- を解放する	104

J

JEIDA	49
-------------	----

L

LAN カード	67
LINE IN 端子	5
LINE OUT 端子	5
LINE 端子	5, 105

M

MB	17, 60
MD	56
MOドライブ	72
Mute (消音) ボタン	8

N

Num Lock キー	7
-------------------	---

P

Page Down キー	7
Page Up キー	7
Pause キー	7
PC/AT 互換機	42
PCI	68
PCMCIA	49
PC カード	48
- をセットする	49
- を取り出す	50
PC カードスロット	3
PC カード取り出しボタン	2
PHONE 端子	5, 106
PHS 接続カード	49
Plug&Play	47, 68
PnP	47, 68
Print Screen キー	7

S

Scroll Lock キー	7
SCSI	53, 72, 77
SCSI カード	67, 73
SCSI ケーブル	73
SDRAM	61
Shift キー	6
SPD	61

T

TWAIN	53
-------------	----

U

USB	2, 55
USB 機器	55
USB 変換ケーブル	44
USB ポート	2, 5, 105

W

Windows キー	6
------------------	---

イ

インジケータ	7
--------------	---

エ

液晶ディスプレイ	
- 仕様	101
- の特性	117
- の廃棄	117
エラーメッセージ	96

オ

お手入れ	35
オプション機器	40
音量調節ボタン	8
音量つまみ	22
音量を調節する	22

カ

カーソルキー	7
解像度	32
- を変更する	33
書き込み禁止タブ	18
拡張カード	67
- を取り付ける	69
拡張スロット	5, 68
各部の名称と働き	2
画面	32
かんたんメールボタン	2, 27, 119

キ

キーボード	6
- のお手入れ	35
強制終了できないとき	13

ク

空白キー	6
クリアパネル	5
クリック	9

ケ

ケーブル	106
------------	-----

コ

コネクタのピン配列と信号名 105

サ

再生/一時停止ボタン 8

サウンド機能仕様 101

サウンドドライバをインストールする 111

シ

終端抵抗 73, 74

終了 13

仕様一覧 100

省電力 14

シリアルコネクタ 3, 105

ス

スキャナ 53

スクリーンセーバーボタン 8

スクロールボタン 9, 28

スタンバイ 14, 119

スタンバイボタン 8

スピーカー 3, 22

- から音が聞こえないとき 23

- 仕様 101

- の音量を調節する 22

スペースキー 6

スロットカバー 70

セ

セットする

- CD-ROM 20

- PCカード 49

- フロッピーディスク 17

ソ

増設する

- MOドライブ 72

- 拡張カード 67

- ハードディスク 77

- メモリ 60

外付けMOドライブ 73

- を取り付ける 74

外付けハードディスク 77

- を取り付ける 77

タ

ターミナルアダプタ 54

ターミネータ 73, 74

タッチパネル 3, 30

- 仕様 101

- のお手入れ 35

- のドライバをインストールする 115

- の補正 31

ダミーカード 52

チ

チルトフット 6

ツ

通風孔 4

テ

停止/取り出しボタン 8

ディスプレイドライバをインストールする ... 108

デジタルカメラ 52

デジタル携帯電話接続カード 49

デバイス 104

テンキー 7

電源 12

- を入れる 12

- を切る 13

電源スイッチ 3

電源ランプ 3

ト

取っ手 4

ドライバ 42

取り出す

- CD-ROM 21

- PCカード 50

- フロッピーディスク 18

取り付ける

- 拡張カード 69

- 外付けMOドライブ 74

- 外付けハードディスク 77

- 本体カバー 59

- メモリ 62

取り外す

- 本体カバー 58

ハ

ハードディスク	77
- の領域を設定する	78
- を増設する	77
- をフォーマットする	80
ハードディスクアクセス表示ランプ	2
ハーフサイズ	68
パソコン本体	2
- 仕様	100
- のお手入れ	35
発色数	32
- を変更する	33
早送りボタン	8

ヒ

光磁気ディスクドライブ	72
光デジタルオーディオ出力端子	3
- の設定を有効にする	57
左ボタン	9

フ

フォトレタッチソフト	53
ブライトネスボリューム	4
プラグアンドプレイ	47, 68
プリンタ	44
フロッピーディスク	16
- のデータを守る	18
- をセットする	17
- を取り出す	18
フロッピーディスクアクセス表示ランプ	5
フロッピーディスクドライブ	4
- のお手入れ	37
フロッピーディスク取り出しボタン	5

ヘ

ヘッドセット	22, 23
- から音が聞こえないとき	24
ヘッドホン	25
ヘッドホン端子	3
ペン	3, 30

ホ

ボリュームボタン (+)	8
ボリュームボタン (-)	8
本体カバー	58
- を取り外す	58
- を取り付け	59
本体チルトフット	5

マ

マイク端子	3
マウス	9
- のお手入れ	35
マウスポート	6
巻き戻しボタン	8

ミ

右クリック	9
右ボタン	9
ミュート	22

メ

メモリ	60
- の組み合わせ	62
- の取り付け場所	61
- の持ちかた	63
- 容量を確認する	65
- を取り付け	62
- を増やす	60
メモリカード	49
メモリスロット	61

モ

モデムカード	67, 102, 117
- 仕様	102

ワ

割り込み要求	103
ワンタッチボタン	6, 8, 26

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、WindowsNT、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

ATI は ATI Technologies Inc の商標です。

K56flex は Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

使いこなす本 ハード編

B3FH-5541-01-01

発行日 1999年10月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㊦ 9911-2



箱を開けたら...

箱の中身を確認してください。
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認
しましょう。

はじめに読む本

まず最初に...

1 取扱説明書



ビデオを見てから
本を見よう!



パソコンが初めてなら...

2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが
付いています!



FMVを知ろう!

3 FMV総合案内

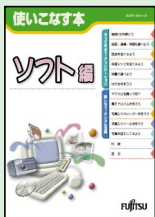


使いこなす本



インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



ソフト編

- ・デジタル写真を利用する
- ・はがきを作る
- ・電車の経路を調べる
- ・地図で調べる



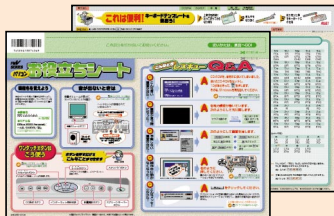
ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

困ったときの本

お役立ちシート

お手元に置いてお使いください
・ありがちなトラブルの解決
・文字入力早わかり



トラブル解決Q&A

- ・パソコンが動かない!
- ・サポート情報
- ・パソコンをふりだしにもどす



画面で見る

パソコン情報ランド

今すぐ役立つ情報がいっぱいです!
・豊富なQ&A情報 ・マニュアル検索
・パソコン用語集 ・トラブル解決のヒント



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618874175